

<平成28年度 大阪工業技術専門学校 インテリアデザイン学科2年前期 地域連携課題>

地域と繋がりながら「集まって住むこと」を考える

～大阪市港区築港エリアでの提案～

はじめに

1年次に取り組んだ「すまいの設計」から広がりを持たせ・・・

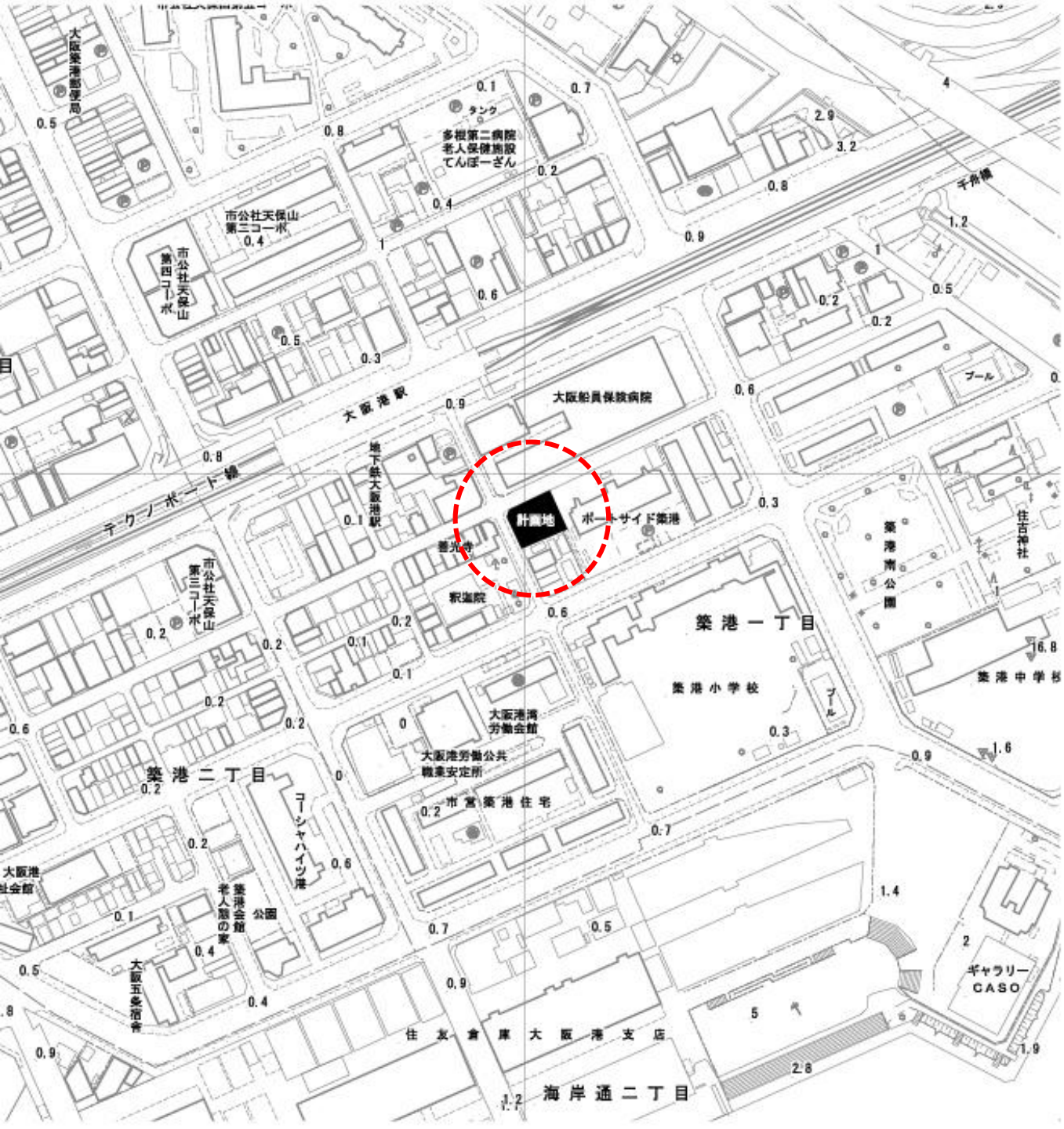
2年次の前期では 地域と繋がりながら「集まって住む」こと を考えてみることにしました。

その舞台となるのが、大阪市港区築港エリア（地下鉄中央線大阪港駅南側）です。

そこに廃業した銭湯「築港温泉」（店主：福田さん）が今でも建っており、そこを今回の計画地とさせていただくことになりました。

「まちに開きながら住むこと」を小さくても実践することで、まちが変わり始めるきっかけを与えることができるのでは？と考えての取り組みです。

インテリアデザイン学科の学生だからこそできるスケールでの提案です。



築港温泉

周辺の日常の様子

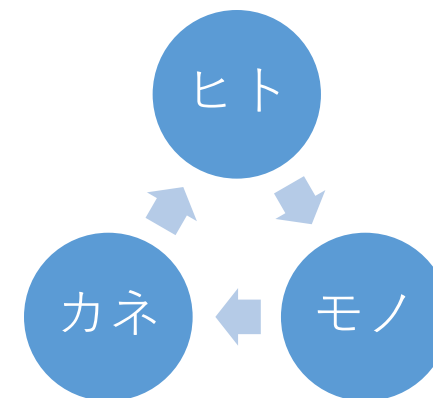


「天保山まつり」の時の様子



課題条件（詳細は別紙をご参照ください）

- 「賃貸部屋 + 大家さんの住まい + プラス α な空間」とする。
- 周辺をリサーチし、そこで得た情報から「プログラム（物語）」を提案する。
- そのプログラム（物語）に合う空間を持った建築を計画する。
- 「ヒト」「モノ」「カネ」の流れを考えてみる。
- 住人は大家さんの他、20歳～30歳台の見知らぬ者同士とする。
- この課題を進める上でのキーワードを「シェア」とする。（シェアをデザインする）



シェア・・・公共性

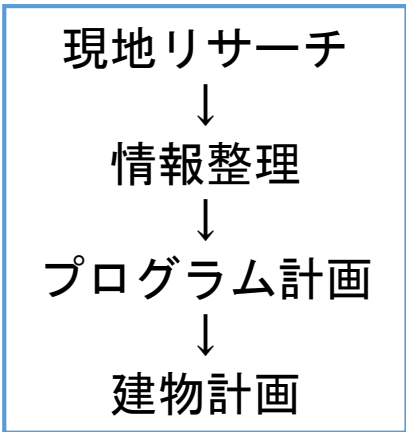
公共性・・・公共施設、学校、病院、鉄道などが考えられますが・・・

今回は民間（地域住民）の力を使った、少し小さなスケールでの「公共性」を考えてみる。

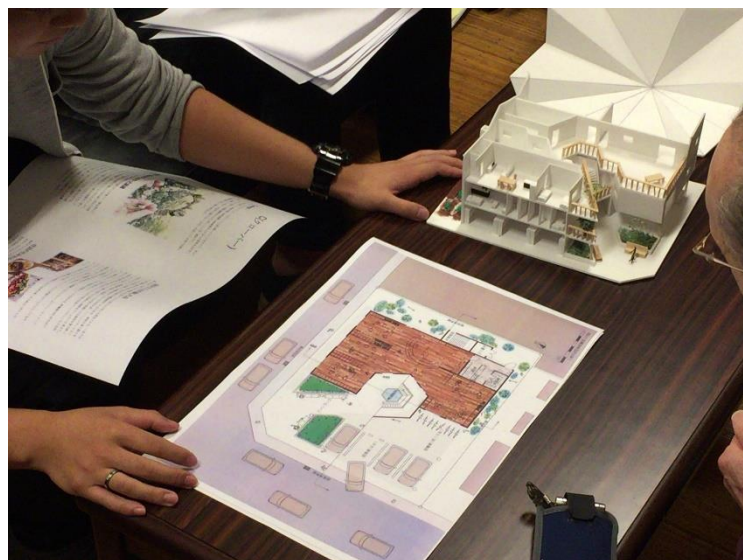
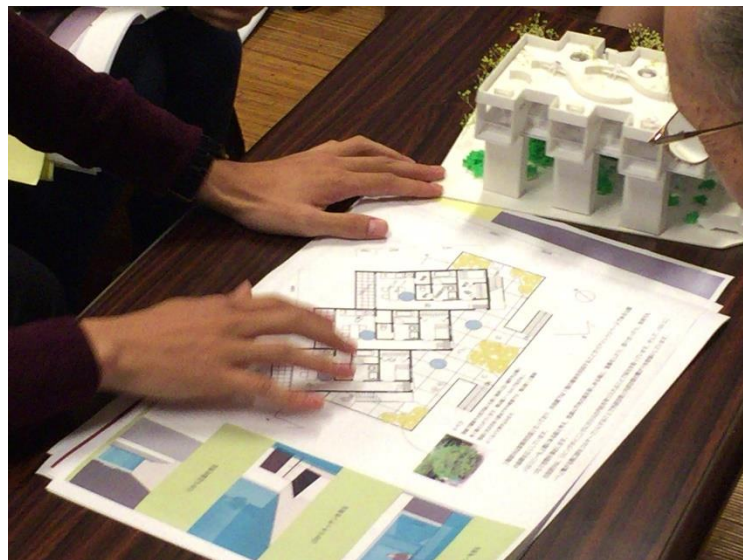
言い換えれば「**みんなでまちをシェアする**」ということ。



計画中 . . .



築港温泉 福田さんへのプレゼンテーション（選抜学生5名による）



山本さんの提案

- ✓ 放置自転車問題
- ✓ 自転車好きのためのシェアハウス
- ✓ レンタサイクルショップ
- ✓ クーポン等を使った周辺店舗等との連携

集まって住むことを考える

～築港シェアサイクリング～





コンセプト

かつては人々が賑わい栄えていたまちが、現在では若い人が減り、お年寄りが増えどんどんシャッター通りが増えてしまっています。

まちづくりには地域の人の繋がりが大切ですが、外から若い人を呼び込み関係を作っていく事も大切になっていくと思います。

家族でもない他者と関わりを持つにはキッカケが必要です。その地域の特性を活かし、多くの人が共有できるキッカケ、

そこで私がテーマにしたのが「**自転車をシェアする**」ということです。

自転車というものを軸に集まる場＝シェアハウスをつくり、そこからまち全体に走り出してほしいなと考えました。

なぜ自転車なのか、それは築港の現状から浮かび上がってきました。

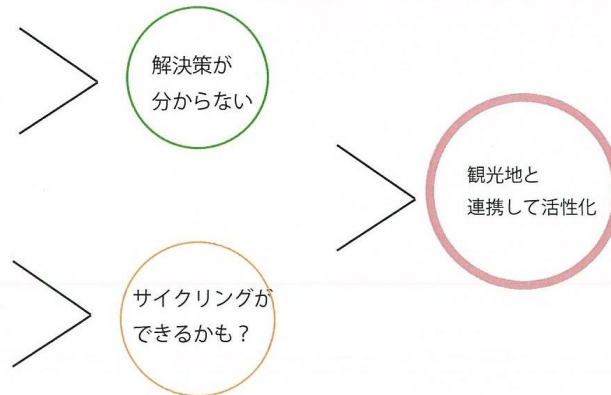
まちの現状

問題点

- ・ 仕事がない
- ・ 住んでいる人が減った
- ・ 買い物をする所がない
- ・ 観光客は観光地にしか行かない

利点

- ・ 絶景ポイントが多い
- ・ 自然があり静か
- ・ 交通面が良い
- ・ 短時間で築港を一周できる



現地をさらに調査

道幅が広く、きれいに整備されている

自転車用の道もあった

観光船サンタマリア号には自転車に乗せることが出来る

道に地元の人が乗っている自転車が止められていた

坂道が少ない

アウトドア好きな感じの外国人をよく見かけた



地域とどのように連携していくのか

大阪 自転車放置・撤去問題

大阪ではかつて自転車放置台数ワースト一位になるほどの深刻な問題です
現在では対策の効果もあり、放置自転車が減っている区域もあるようですが
まだまだ対策が必要です。

撤去したら保管所にたまる一方。お金もかかる。そんな行き場のない自転車を有効に使えないのか？

自転車好きのシェアハウス

自転車が好きな人たちが集まるシェアハウスはすでに存在します。

(なぜシェアするのか？)

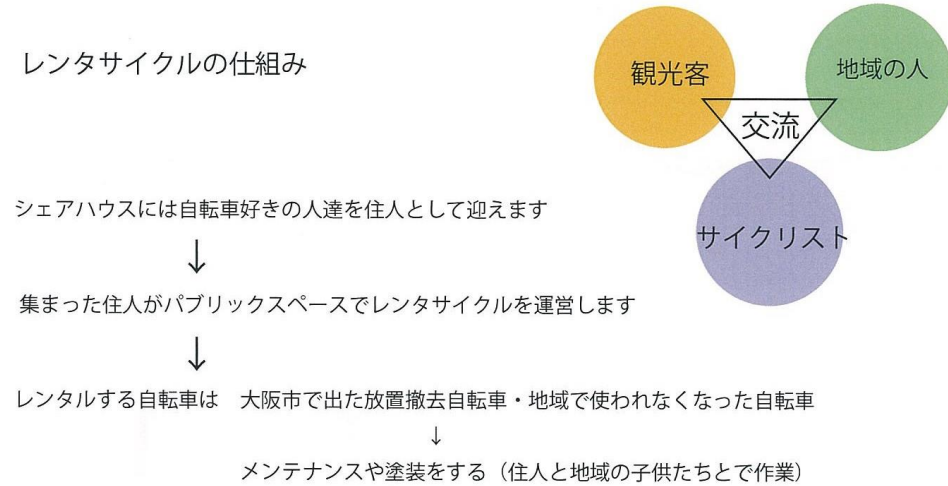
- ・ 自転車を所有するには広いスペースが必要
- ・ 室内に持ち込める
- ・ 工具の貸し出し、置き場所



場所が必要



レンタサイクルの仕組み



観光客に貸す

地域の人に貸す

- ・ 築港の観光地をサイクリングでまわってもら
- ・ 観光地との連携
穴場のカフェやお店のクーポン配布
スタンプラリー
イベント参加券など

- ・ 買い物や出かける際の交通手段として
交流の場として

貸すだけじゃない！
調子の悪い自転車のちょっとした修理
洗車など

1日貸し出し

無料

うまれるもの

レンタサイクルや修理を目的に人がやってくることで、賑わいが
うまれ商店街のお店の需要が高まる

スペースを求めていたサイクリストの集いの場が出来る

住人と地域の人との交流が生まれ、情報交換ができる

有名な観光地との連携で、それ以外のスポットも賑わう

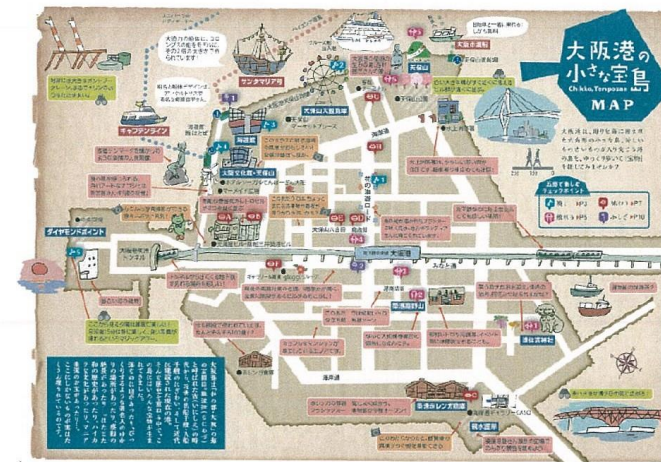
大阪市の自転車問題にも降雨県出来る

地域の子の移動手段が増える

仕事

交流

手段





計画地のこと

場所 築港温泉・大阪市港区築港1-9-23
敷地面積 594.71㎡

現在は廃業している銭湯の「築港温泉」
かなり古くなっているが、広いので今ではホールとして劇や集会で使われています。
まちづくりのために建て替えるか検討していたところです。

周辺のこと

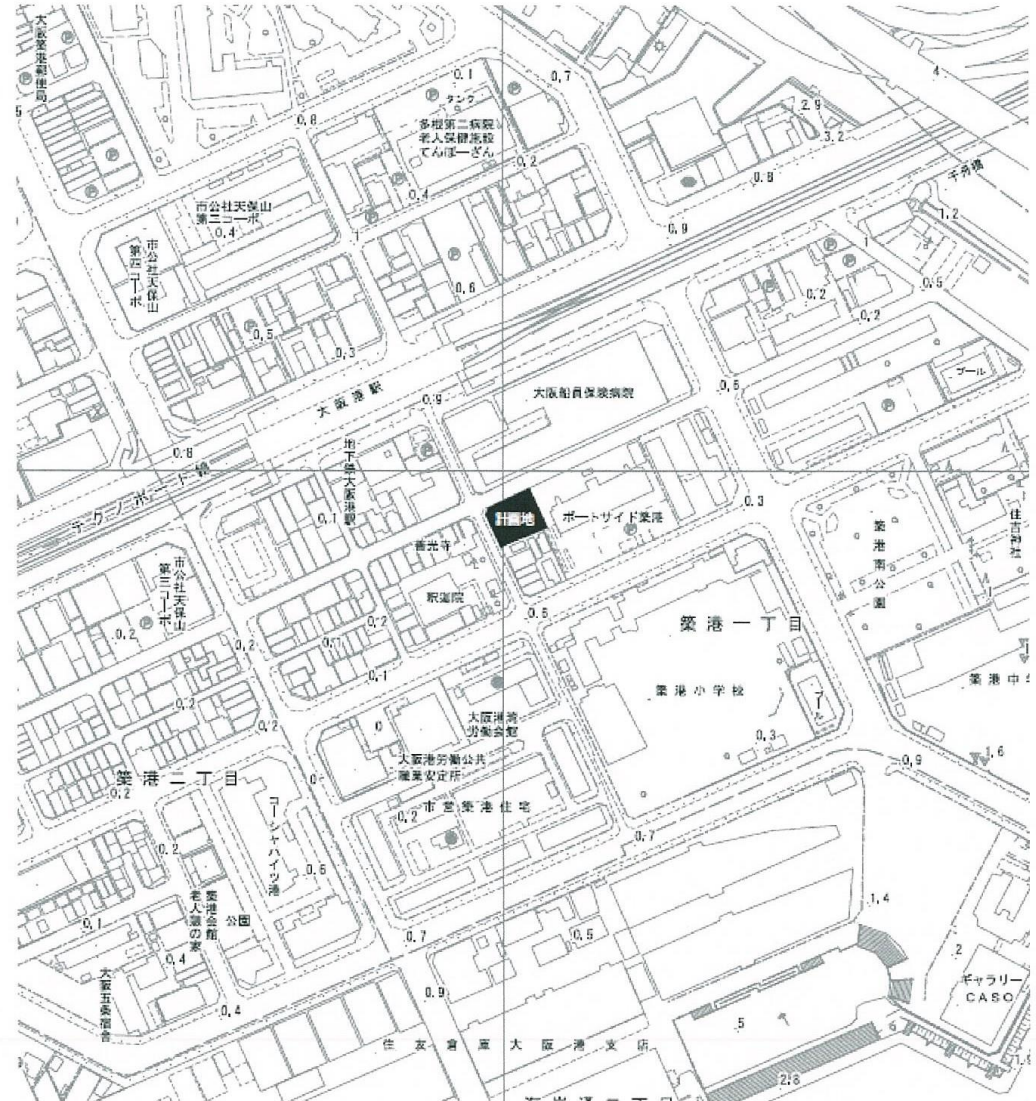
築港温泉は港商店街の一角にあります。駅から近く交通面は良いです。しかし商店街はほとんどシャッターが閉まっており、人も全然いません。そのため色々な問題があります。

- ・病院が縮小化
- ・小学校が少ない
- ・ずっと住み着く人がいない
- ・買い物するところがなく、車で遠くまでいかなくてはならない
- ・高齢者が暮らしにくい団地がある 限界集落 etc

このように多くの問題を抱えていますが、近くには観光地がいくつもあり、北にいけば海遊館もある魅力のある場所でもあります。

- ・ダイヤモンドポイント
- ・赤レンガ倉庫
- ・天保山
- ・海遊館 etc

この計画地で、まちづくりの一環として「シェアハウス」を提案していきます





計画条件

○規模 3階建て

○住居スペース

単身者用 (戸数6戸程度) 約30㎡/戸

家族用 (戸数3戸程度) 約50㎡/戸

シェアスペース

○大家さん住居：二世帯住宅 約150㎡

家族構成(4人):父(70代)、母(60代)、娘(40代)、娘の息子(中学生)

○パブリックスペース 約100~150㎡程度

○駐車場：平面駐車 3台分

○近隣商業地域

建蔽率：90%

容積率：300%

斜線制限：道路斜線(商業系：1.5勾配)

現地写真



築港ビル

船員保険大阪健康管理センター

前面道路

24.12M

4.10M

隣家

隣家

隣家

善光寺

計画地(築港温泉)
594.71㎡

19.20M

22.06M

歩道

前面道路

歩道

27.15M

UR都市機構ポートサイド築港

隣家

隣家

隣家

釈迦院

隣家

隣家



敷地図 S=1/200



ボリューム検討

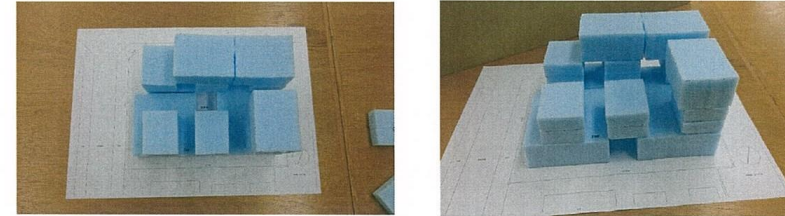
どんなシェアハウスにしていくかを考える作業の一つ目として、ボリューム検討をしました。部屋ごとにブロックを分け色々と組み合わせて建物全体のボリュームやどのような空間の使い方ができるか検討しました。そして3つの案を出しました。

敷地の道路に面したところの1階にパブリックスペースを設けることはどの案でも同じになりました。難しかったのは、大家さんの住居と単身者・家族用の住居が関わり合いを持てるように配置することです。階ごとに分けてしまうと顔を合わす機会がなくなってしまいシェアしている意味がなくなってしまい、でも混ぜすぎるとプライベートがなくなってしまう、その間を見つけないといけません。また、建物の中でも自転車を共有できるようにスペースを作ろうと思いました。

ブロック分け

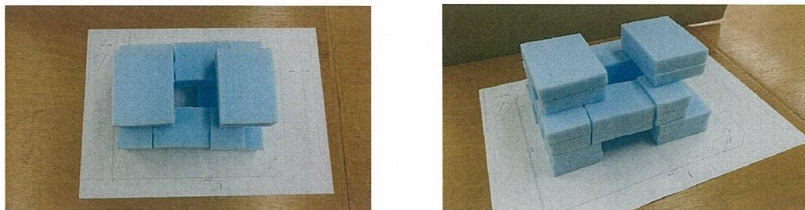
単身者用住居	6戸	(30㎡)
家族用住居	3戸	(50㎡)
大家さん住居		(150㎡)
パブリックスペース		(150㎡)

B案



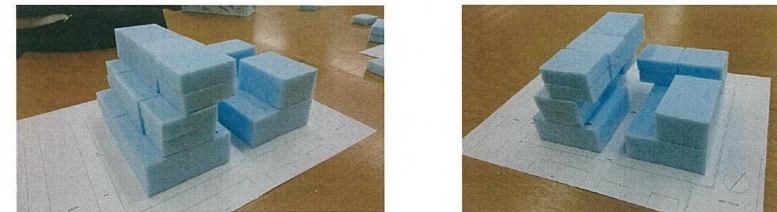
プラス 階によって住居が分かれているが、真ん中を吹き抜けにしたら、十分繋がりがもてる
 マイナス 2階がちょっと窮屈
 可能性 上階が狭い分、自然と1階で集まるようになり、交流ができるかも

A案

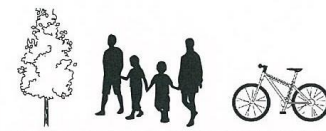


プラス みんなが顔を合わせやすいようにバランスよく配置
 マイナス ボリュームが大きくて外のスペースが少ない
 可能性 直線のスペースあり。室内で自転車に乗れるかも

C案



プラス 1階・2階に住居スペースを集めることで3階が広々使える。
 マイナス 1階の空きスペースをどうするか
 可能性 自転車を置くスペースが確保できて、みんなで共有できる。



空間エスキス

ポリウム模型を元に今度はボードで壁を作り、入り口をどこに設けるか、階段はどこに設けるか、空間同士の繋がりをさらに考えていく作業になりました。

私はポリウム検討の案の要素を組み合わせて、空間エスキスをしていきました。写真の模型は作っては壊しを繰り返したので壁がなかったりしています。ここでもなかなか考えがまとまらずに苦戦し、そのまま図面化に入っていく事となりました。

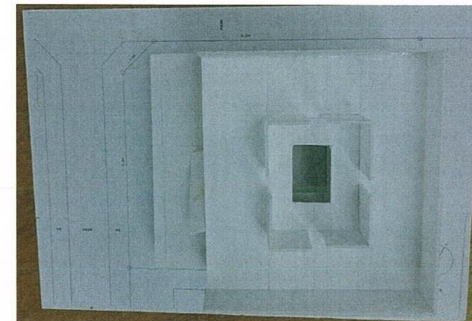
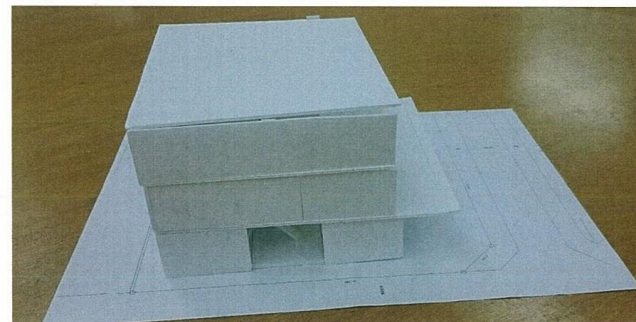
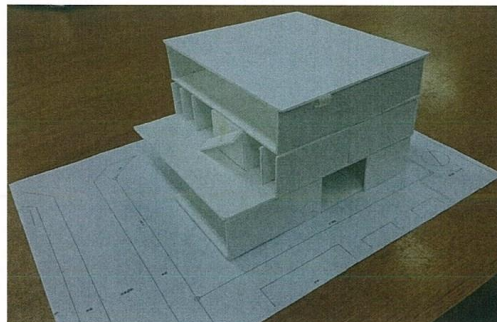
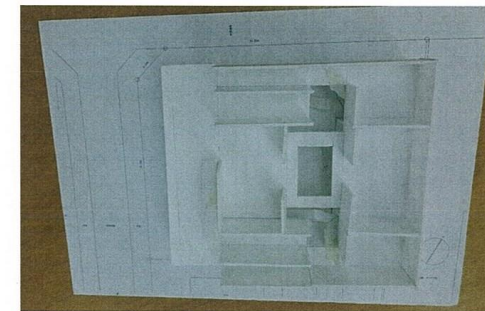
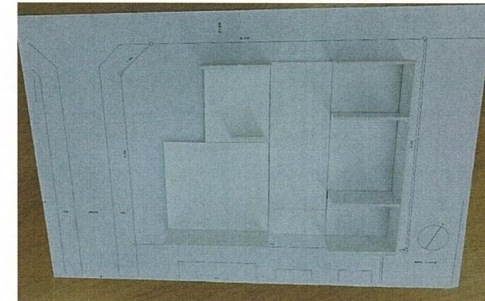
この時点では、1階がパブリックスペースと単身者2戸に家族1戸、真ん中は空いています。


2階は単身者4戸に家族が2戸、真ん中は吹き抜けで広めのバルコニーがありました。みんなが自由に行き来できるバルコニーです。

3階はすべて大家さんの住居にして2階のバルコニーからも階段で上がり遊びにいけるようにと考えていました。

この段階ではスロープをつくり自転車で上へ上がっていく事も案にありましたが、スペースがかなり必要になるのでエレベーターにすることにしました。

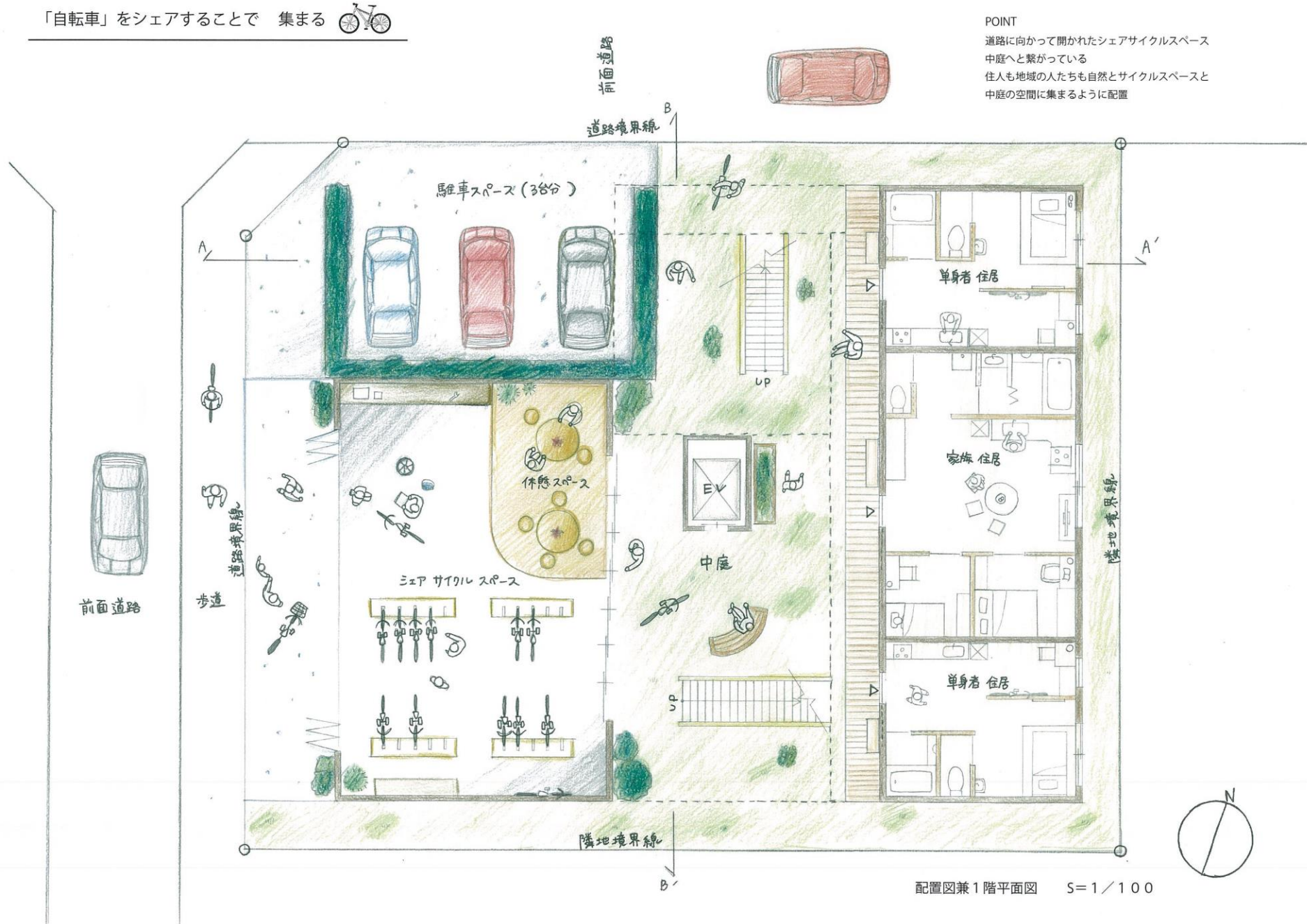
ここから図面に移るのですが、大幅に違うものになっていきます。




「自転車」をシェアすることで 集まる 

POINT

- 道路に向かって開かれたシェアサイクルスペース
- 中庭へと繋がっている
- 住人も地域の人たちも自然とサイクルスペースと中庭の空間に集まるように配置

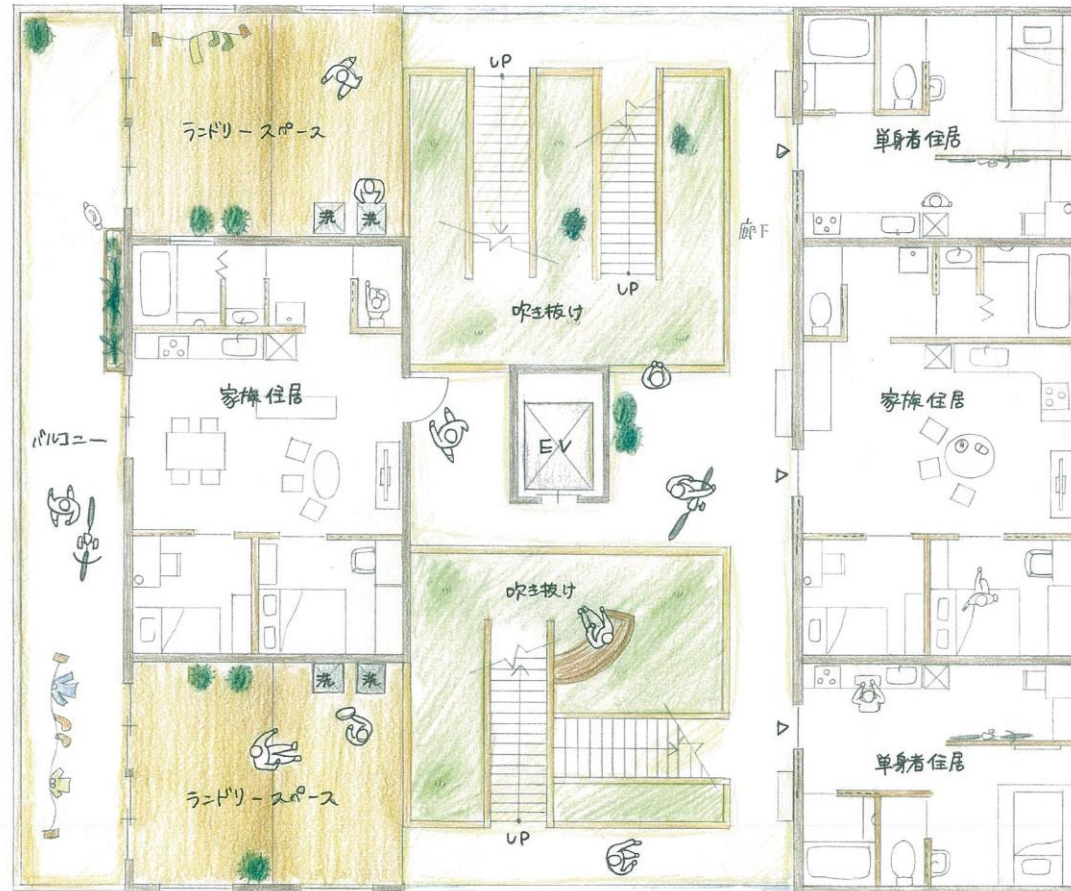



配置図兼1階平面図 S=1/100

「自転車」をシェアすることで 集まる 

POINT

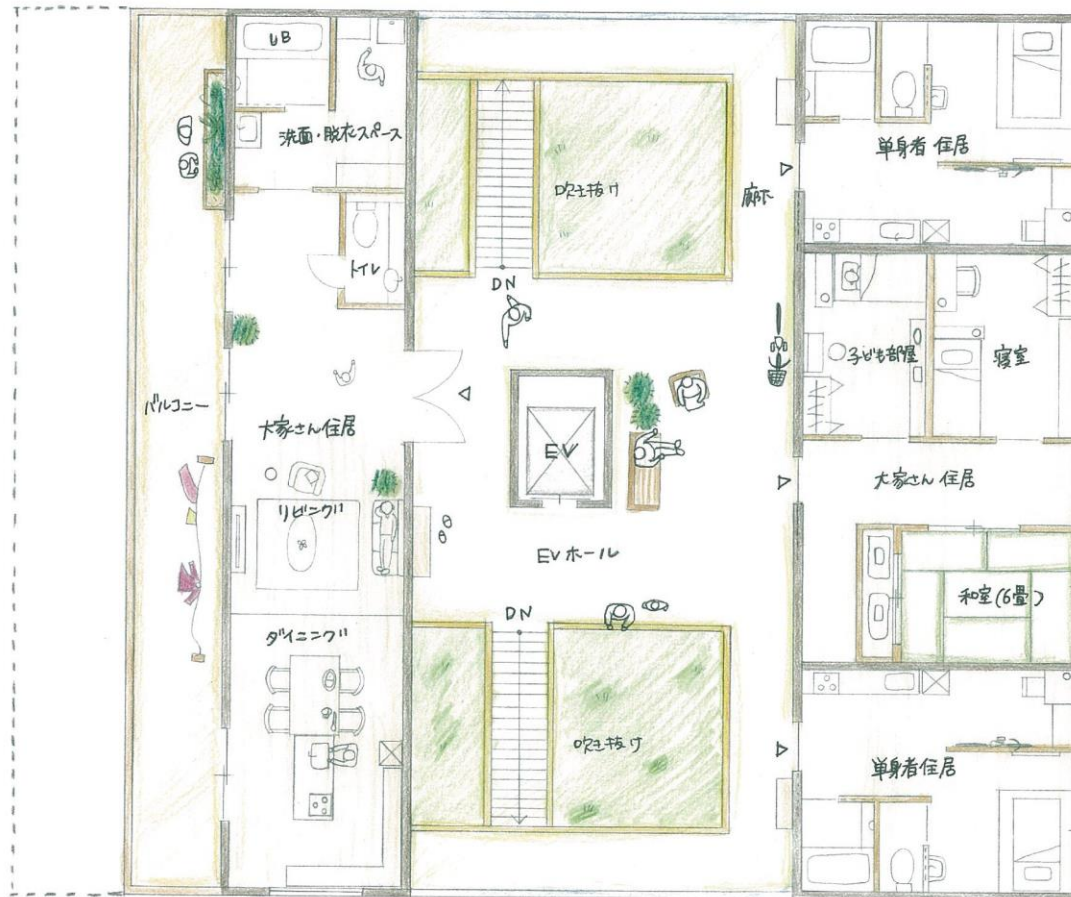
- 単身者共有のランドリースペース
- 共有のバルコニー
- エレベーター
- 吹き抜け
- 生活の動きの中で顔を合わす場所になる
- 洗濯物を干したり、自転車も持ち込める広さ
- 自転車を運べる
- 中庭の空間と繋がれる




「自転車」をシェアすることで 集まる 

POINT

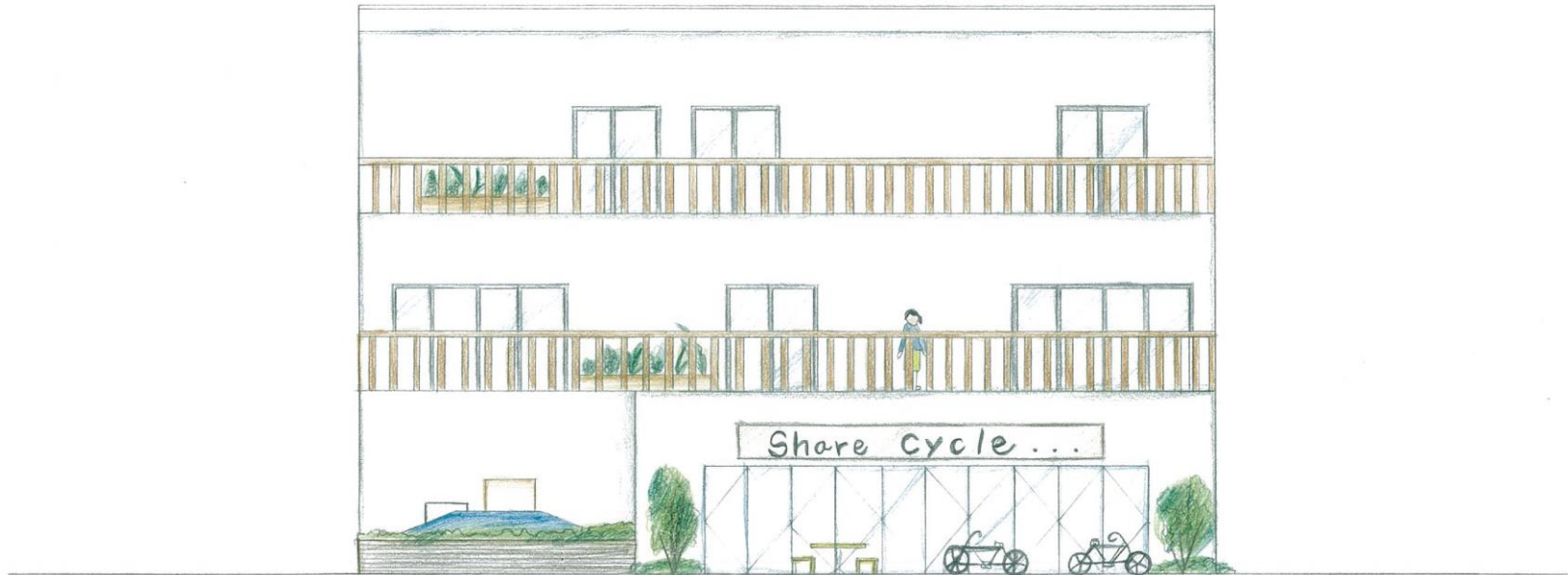
- 広いホール みんなで談笑したりゆったりできる場所
- 大家さん住居 2つに分かれており生活に動きが出る
- バルコニー 大家さん専用



「自転車」をシェアすることで 集まる 


POINT

シェアサイクル入り口 ガラスで出来ているので向こう側まで見える
駐車スペース 植栽と囲いで車を隠しスッキリさせている



西側 立面図

S=1/100

「自転車」をシェアすることで 集まる 

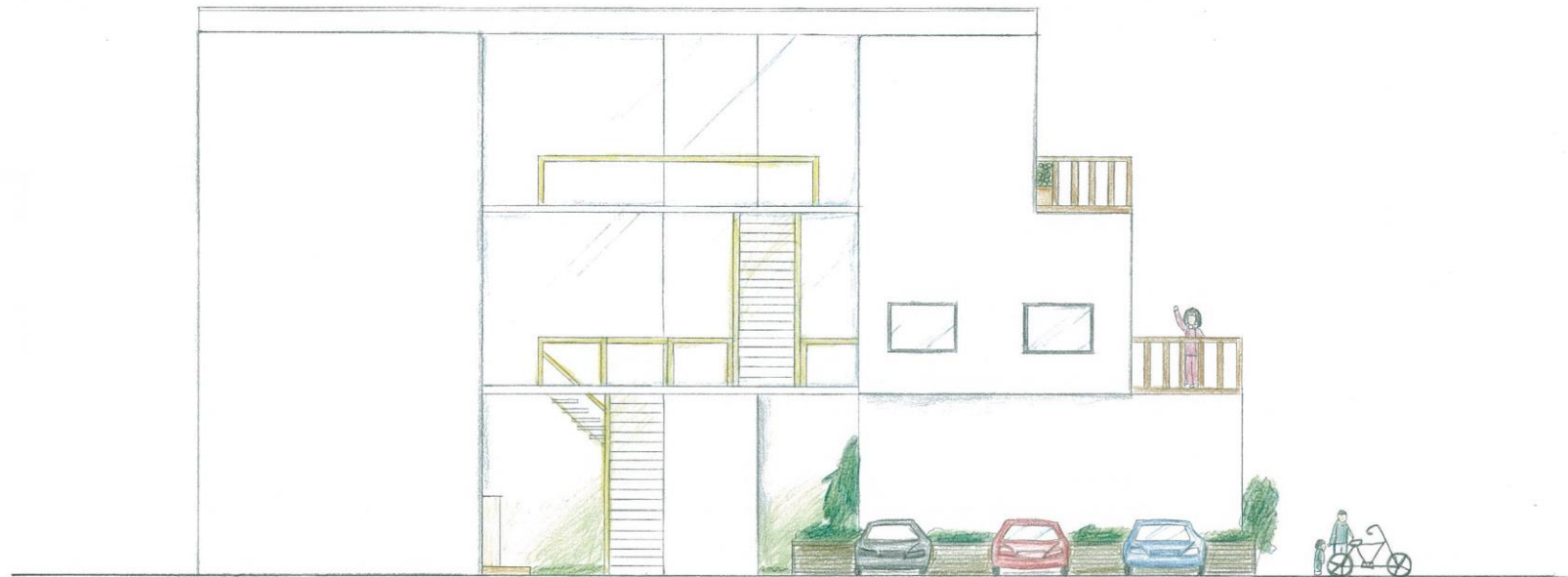
POINT

段違いになったバルコニー


下の階の人と顔を合わせることができる

エレベーターホール

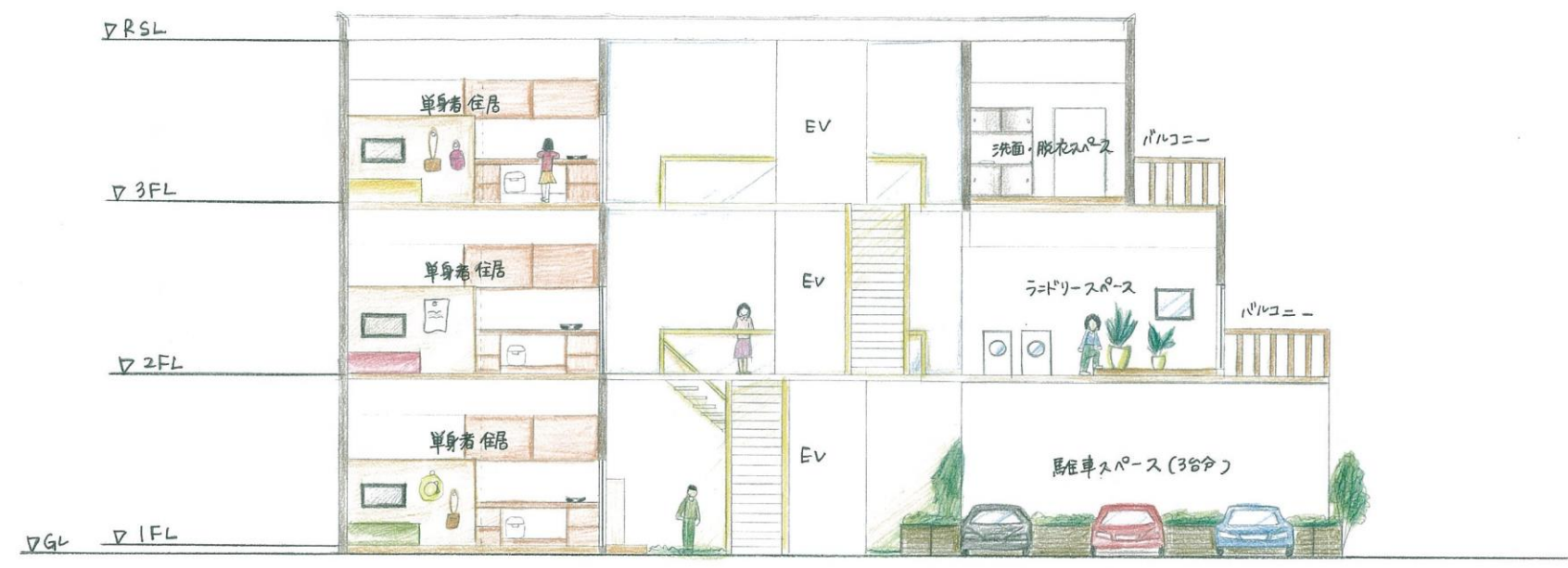
ガラス張りになっており開放的




北側 立面図 S=1/100

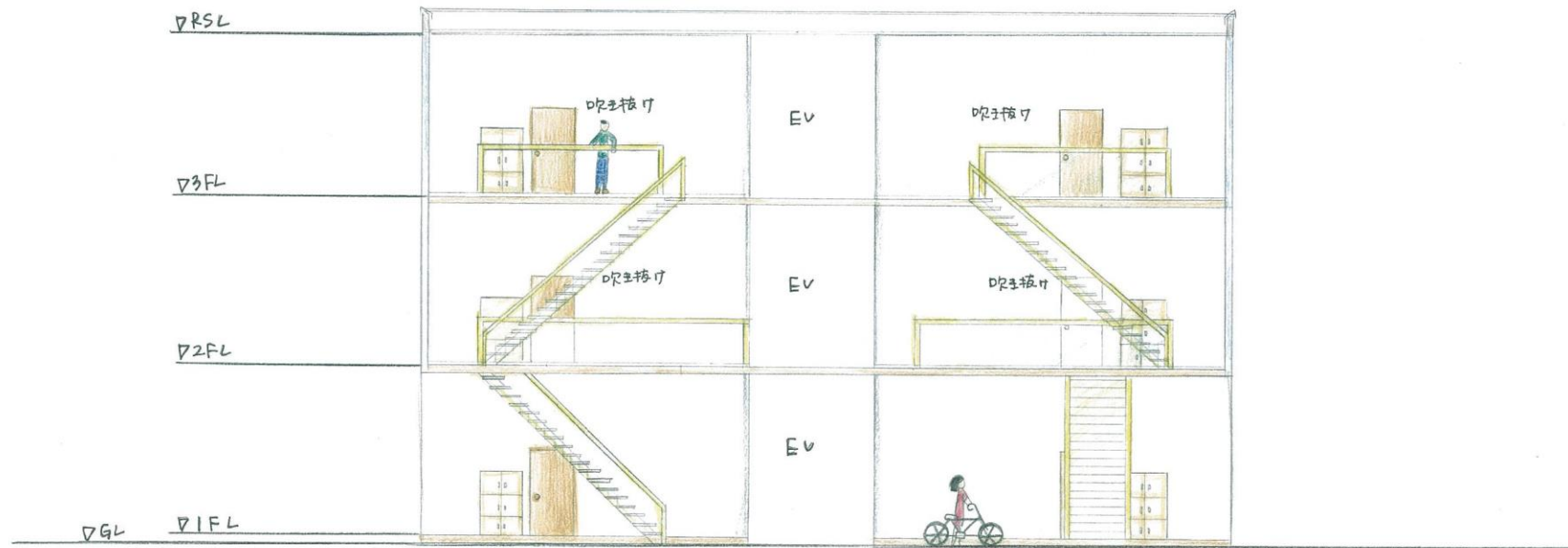
「自転車」をシェアすることで 集まる 

- POINT
- ランドリースペース 段差になっており、腰を掛けたりできる
 - 単身者住居 仕切りの壁にテレビをかけたり鞆をかけたたりできる
ベッドの下には収納がある



A-A' 断面図 S=1/100

「自転車」をシェアすることで 集まる 



B-B' 断面図

S=1/100

・・・「自転車」をシェアすることで 集まる ・・・



模型写真



北側 道路面



東側 中の様子



西側 道路面

駐車スペース

レンタルサイクルスペース



光が入った様子



レンタルサイクル正面入り口



2階部分

・・・「自転車」をシェアすることで 集まる ・・・



シェアハウスのこと

今回私が考えたシェアハウスというのは、無理やりシェアする・交流するスペースを作るのではなく、生活をする中で必然的に住人同士が顔を合わされる空間にしたいと思いました。

レンタルサイクルをするスペースも、中に休憩できる場所があったり、メンテナンスが出来る場所があったりと使う事ができるようにしました。

住居部分はそれぞれはっきり分けて並べて配置していますが、真ん中に庭・階段・エレベーターをおくことで誰かとは顔を合わせるようになります。皆が中を向いているので一体感や落ち着く空間になっています。

ランドリースペースも「洗濯をする」という共通の行為を使って、交流できる場所になればと作りました。

それぞれの空間も持ちつつ、共通の生活の動きの中で自然と交流する、そしてその動きの中に「自転車」というキッカケをプラスして暮らしてほしいと思います。

面積表

敷地面積	594.71 m ²
建築面積	437.00 m ²
1階床面積	231.00 m ²
2階床面積	349.50 m ²
3階床面積	337.40 m ²
延床面積	917.90 m ²
建蔽率	73.48%
容積率	154.43%



平田さんの提案

- ✓ 放課後に子ども達が寄り道できる空間
- ✓ 路地、軒下、原っぱ
- ✓ 住人で運営するC a f eがあるシェアハウス
- ✓ なんとなく皆が集まれる場所（まちの放課後＝時間のデザイン）



地域と繋がりながら「集まって住むこと」を考える

～集合住宅 計画～

計画地▶ 築港温泉 大阪市港区築港 1-9-23

敷地面積▶ 594.71 m²

敷地リサーチの結果

●歴史的背景

- ・もともと荷役の人が住んでいた。
- ・船で栄えた場所
- ・高度経済成長期を迎え、人（荷役）⇒トラック
- ・コンテナを置く場所、トラックを停める場所 確保できず⇒南港へ移行



人口減少

●現在の背景

- ・仕事がないため、お店を閉めてサラリーマンになる人が多数
- ・病院がなくなる⇒子どもが怪我できない
- ・小学校はあるが、子どもが遊べる場所がない。



お話を聞いていくうちにさまざまな問題が複雑に絡んでいることがわかりました。実際に敷地周辺を歩いて見ると小学生がグラウンドに出て元気に走り回っている姿を見て、放課後は何処で遊ぶのかと辺りを一周しても遊べる場所はあまりないことを発見しました。



「集まって住む」ということ

近年、シェアハウスという言葉が流行り若者の中で知らない人同士と一緒に住むということが増えているそうです。同じ趣味を持つ者同士が集まったり婚活用のシェアハウスまであったりとその用途はさまざまです。

家に帰り共有スペースに行けば、必ず誰かがいる。そのような光景が日常生活としてあることで閉鎖的ではない開放的な生活を送れるのではないかと思います。

また、地域の人たちも利用できるような公共空間を提供することでそこに住む人たちだけではなくより多くの人が行き交う中での暮らしは充実したものになると思います。

コンセプト；ファミリー層をターゲットにした「公園カフェ」をテーマとし、計画しました。計画地周辺は小学校があり病院があり、多くのファミリー層が住んでいるので、子どもたちが遊べる場所として公園を提供しお母さんたちもカフェでママ友とお茶などしつつも、すぐ外では子どもたちが遊んでいるそんな人たちが集まる場所を考えました。

1階は公園がある場所で、公園には遊具など設けず樹木や土を盛った凸凹の山を造っただけのものにすることで子どもたちが独自に遊びを考えるようにしました。

2階は誰もが出入りできるようになっていて、公園の延長線のような場所にしています。素足で走り回ったりできるようにコンクリートではなく土や芝生を敷きました。

3階は住居者たちの空間になっています。軒下空間での交流が生まれることを想定して屋根を繋げたり、その下で洗濯物を干したり立ち話したり用途は多様に使えます。ぐるっと一周出来るので孤立することなく、時には一つの空間に集まれるようなそんな配置計画にしています。

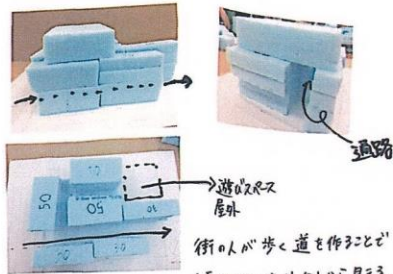
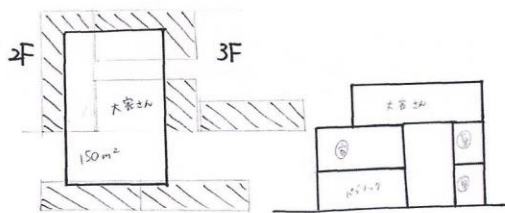
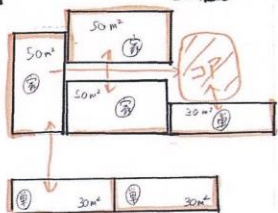
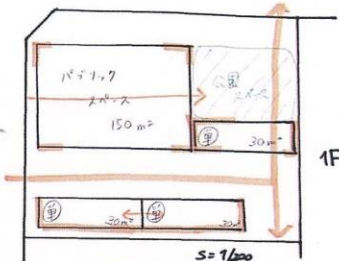
単身者

集合住宅

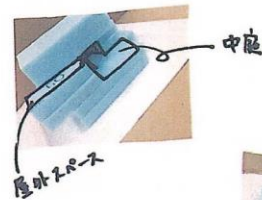
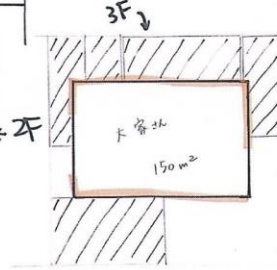
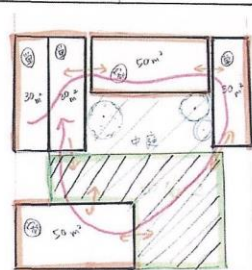
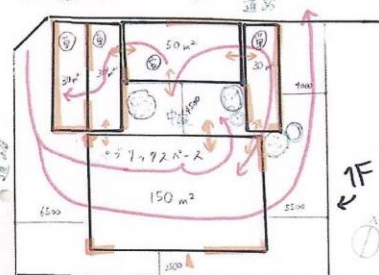
地域

家族

『公園カフェA』



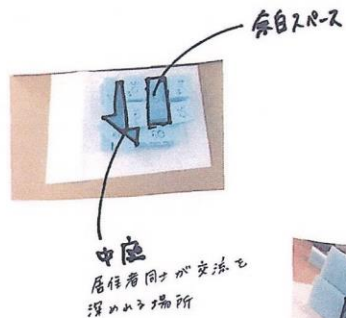
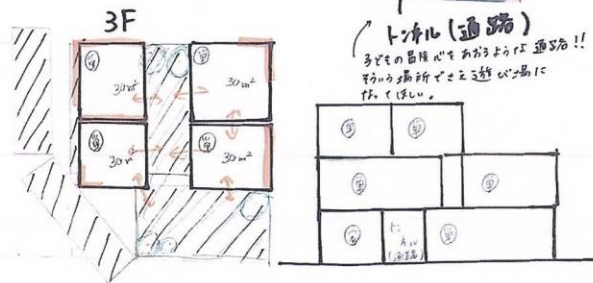
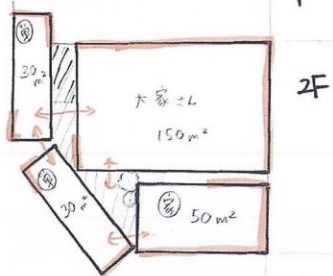
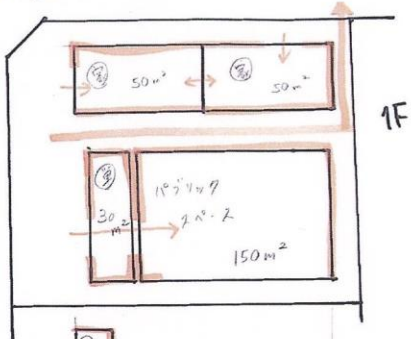
『公園カフェC』



2Fエリアに単身用と家族用の住居があり
交流しやすい。屋外スペースも設けることで
住居者の集まりが盛況な。
3Fには大家さん居住用の「大家」の
交流はしたい。

南立面図 S=1/200

『公園カフェB』

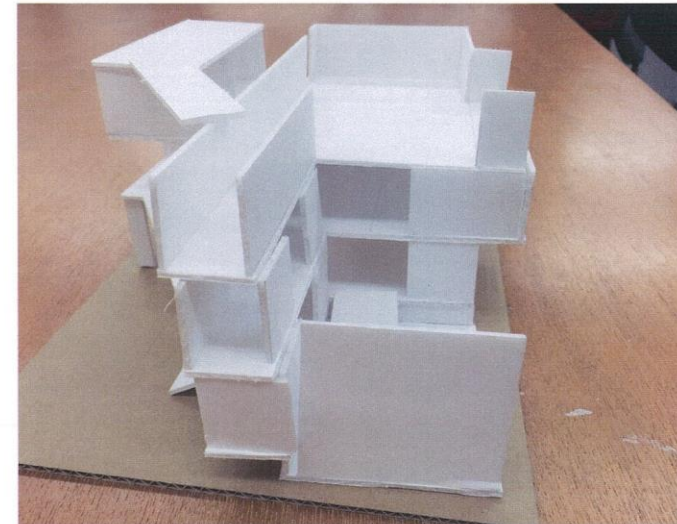
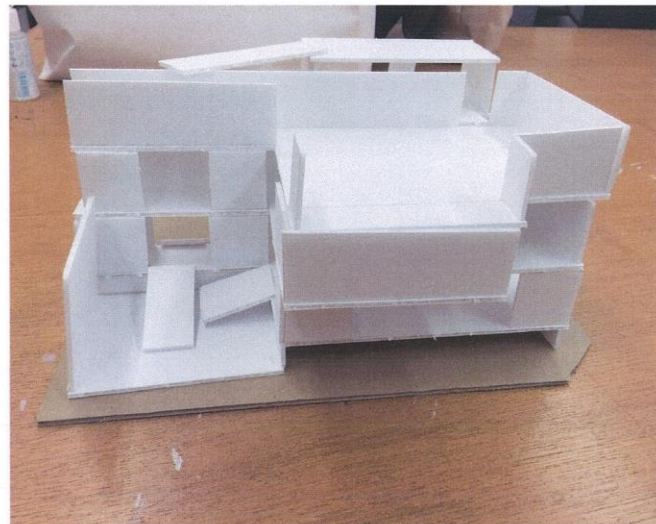
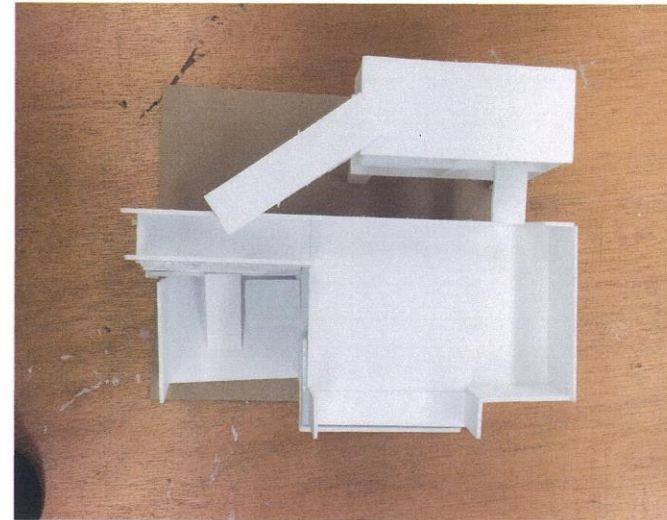


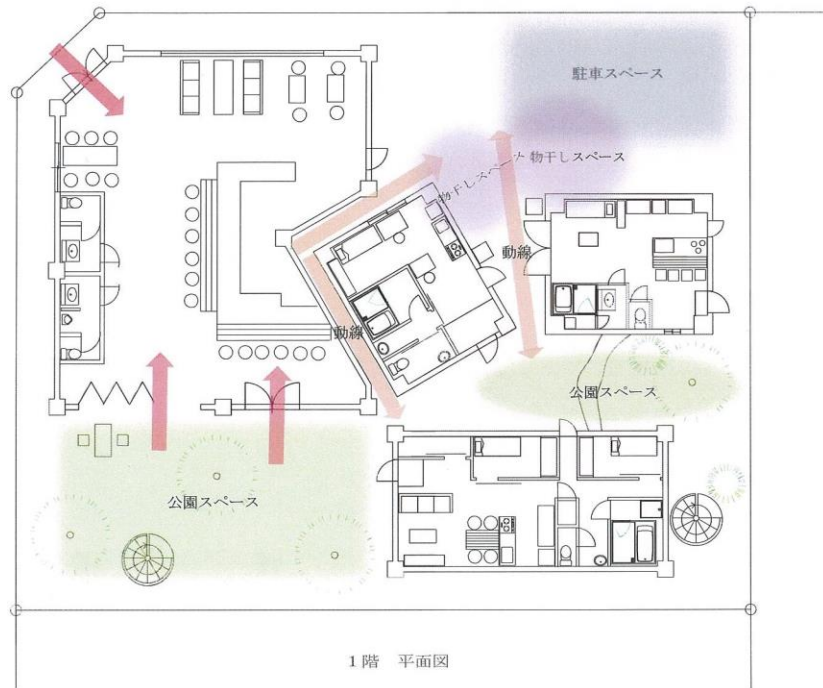
テーマにあがっている公園とカフェが一体となっている集合住宅。
ブロックを積み上げていくと、薄暗い通路ができたり狭い空間が
できたり、子どもの頃よく秘密基地を探しに路地裏に入って探検
したことを思い出しました。
あの頃のようなワクワクするような子どもたちが探検したり、か
くれんぼしたり遊べる場を狭い通路などを設けて提供しようと思
い計画していきました。

空間模型

実際に壁を立ち上げて計画していくと、住居者たちが顔を合わせる
ことのない集合住宅になってしまい通路を考えるのをやめ、1階2
階3階をワンフロアとして考えました。

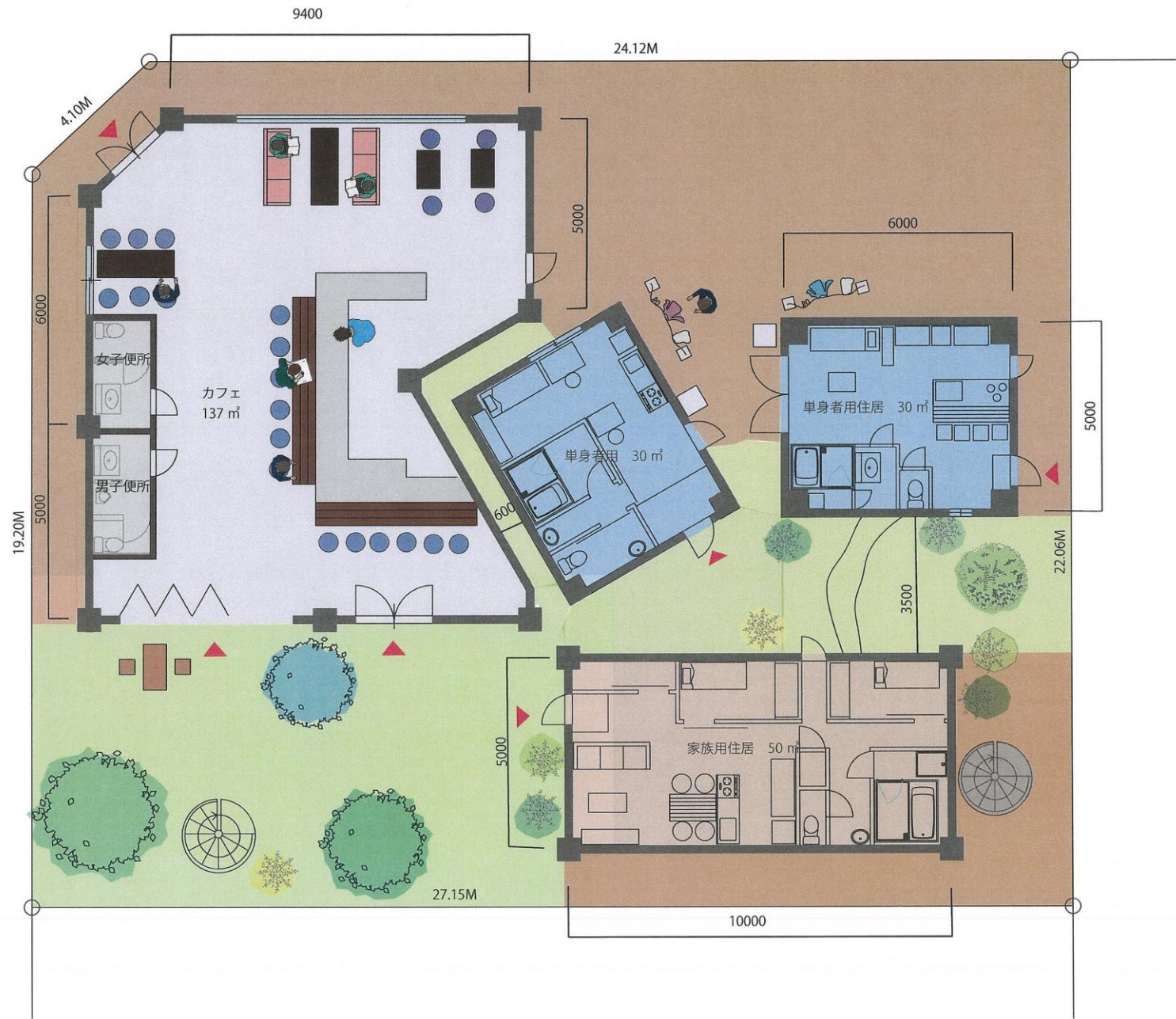
ワンフロアとし誰もが一周できる動線をつくることで住居者同士が
交流しやすくなりました。



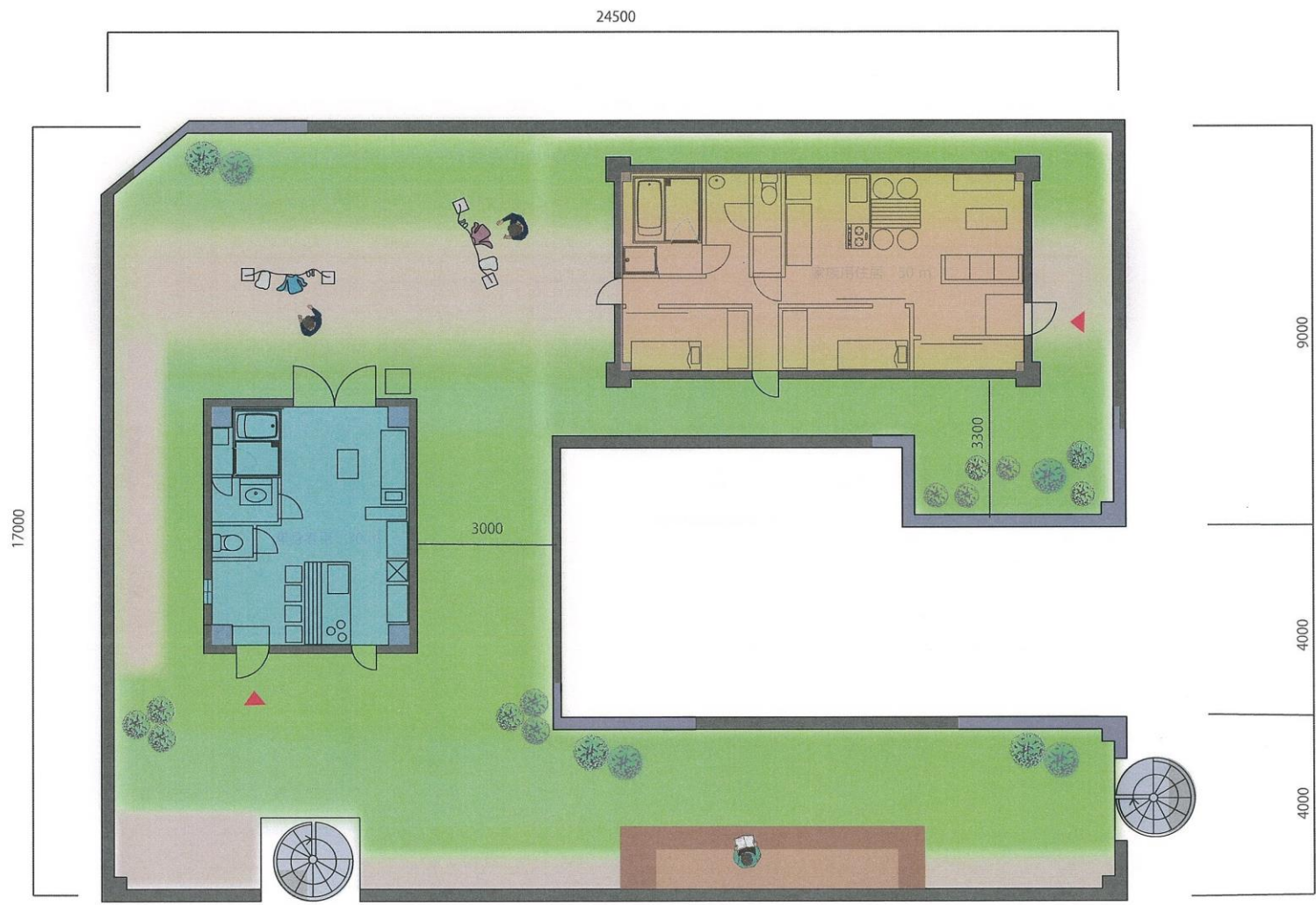


面積表

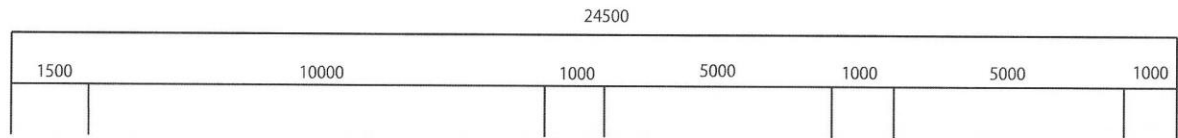
敷地面積	594.7㎡
建築面積	416.5㎡
1階床面積	247㎡
2階床面積	332.2㎡
3階床面積	416.5㎡
延べ床面積	995.7㎡
建ぺい率	70%
容積率	167%



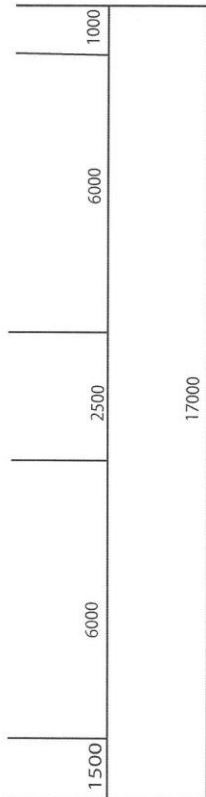
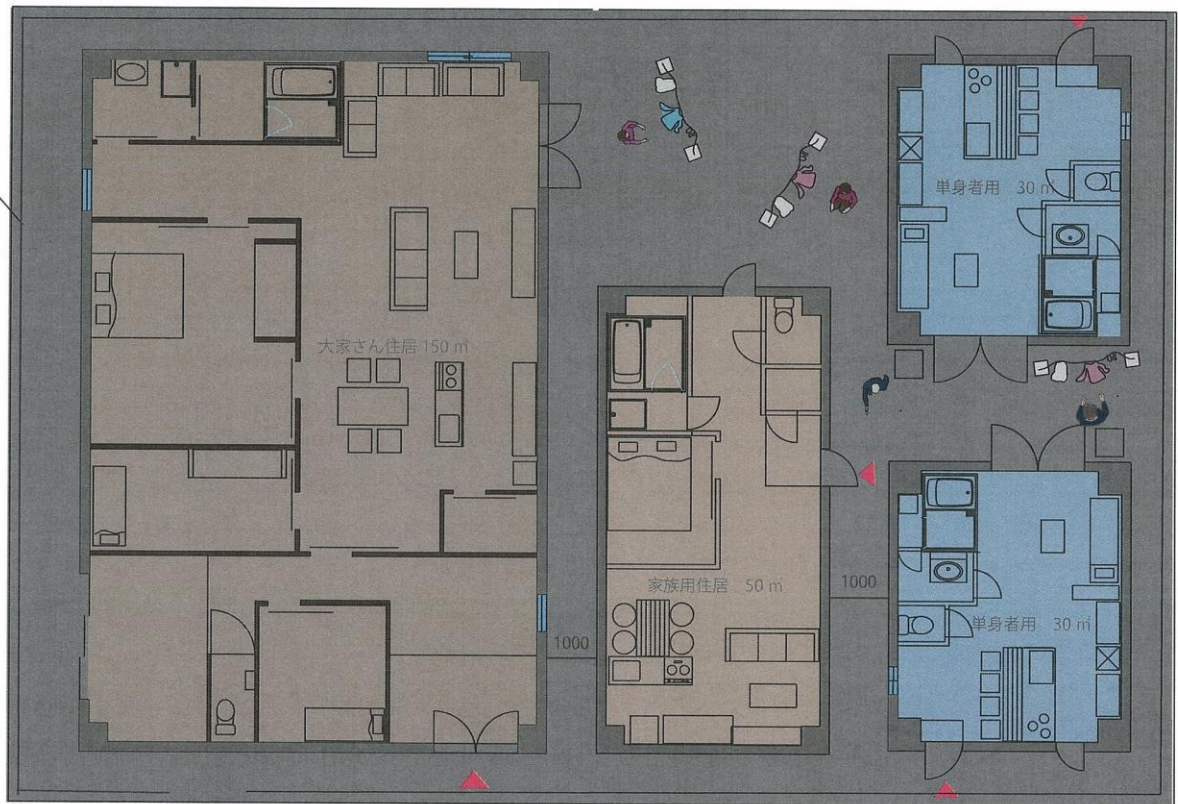
1階平面図 S=1/100



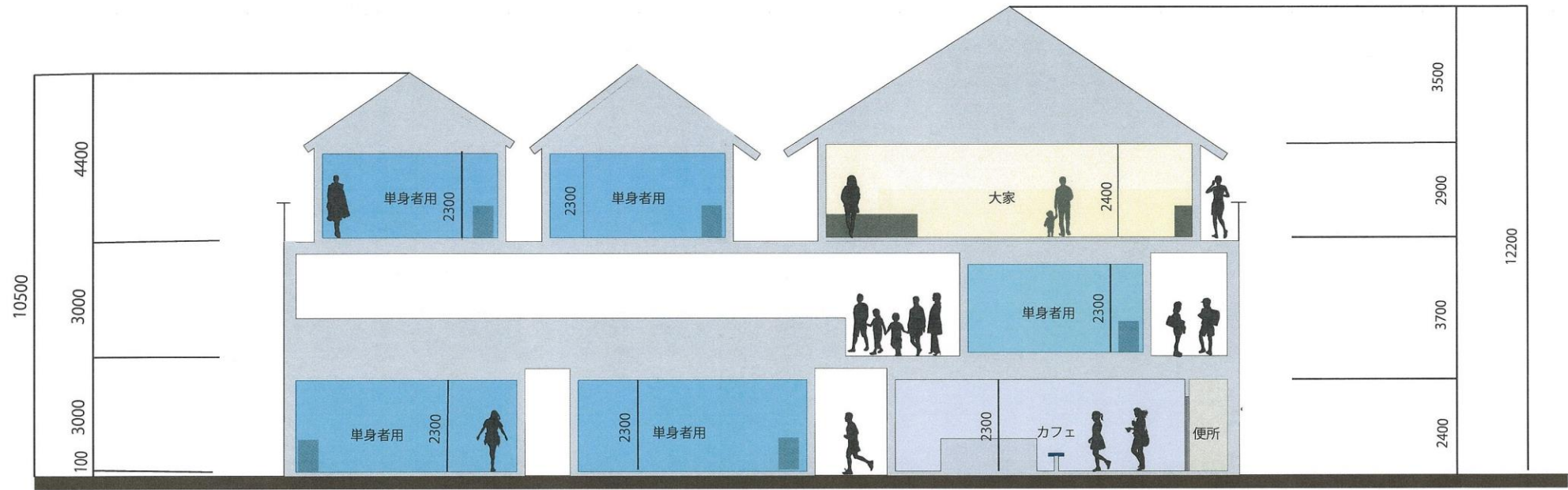
2階平面図 S=1/100



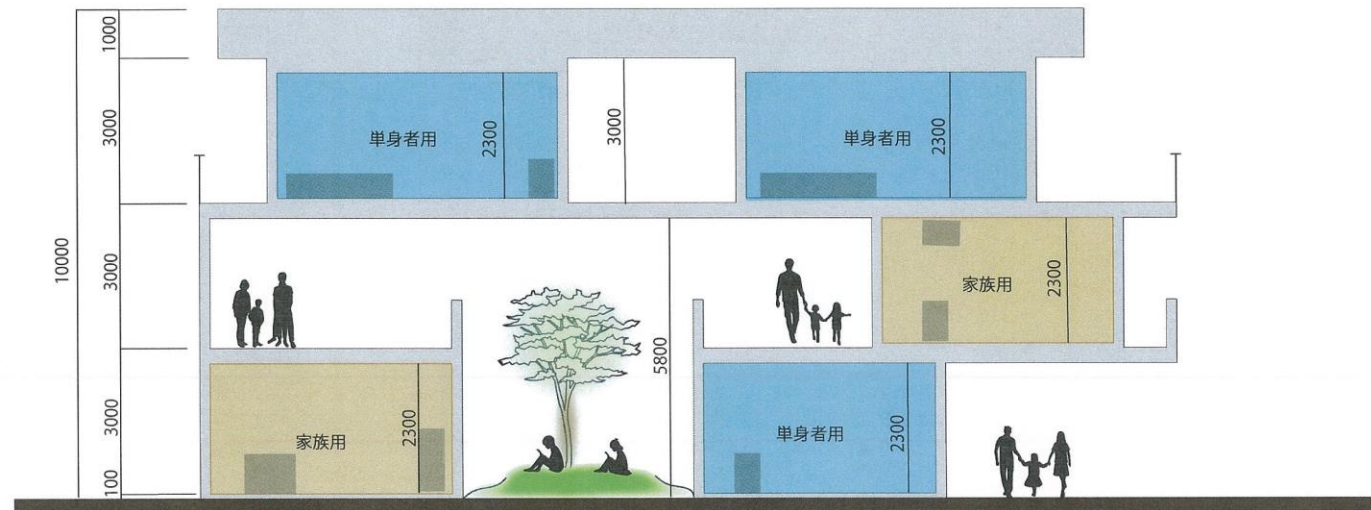
手すり



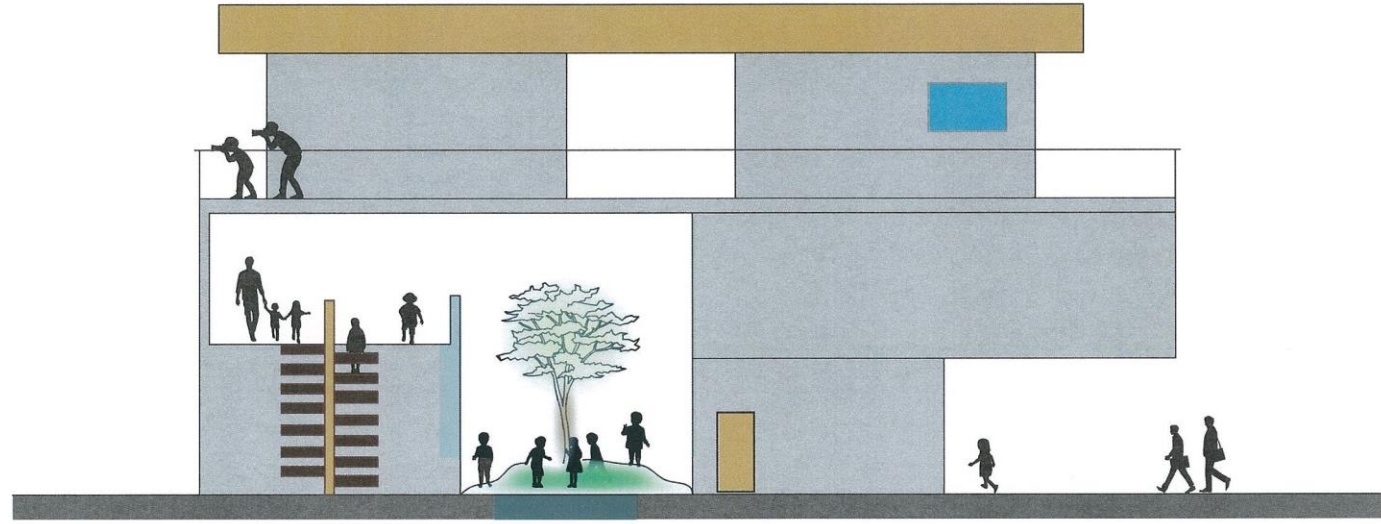
3階平面図 S=1/100



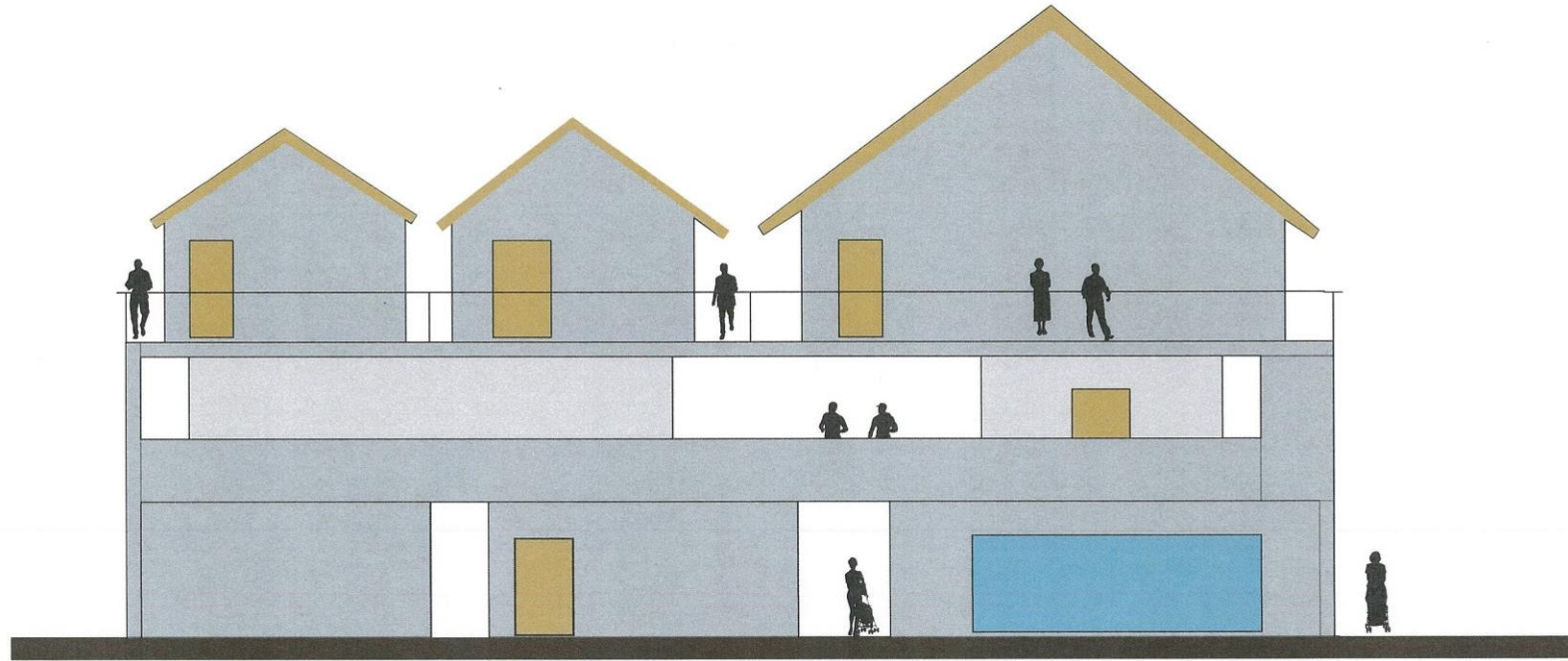
北断面図 S=1/100



東断面図 S=1/100

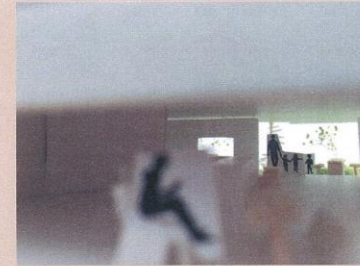


東立面图 S=1/100



北立面图 S=1/100

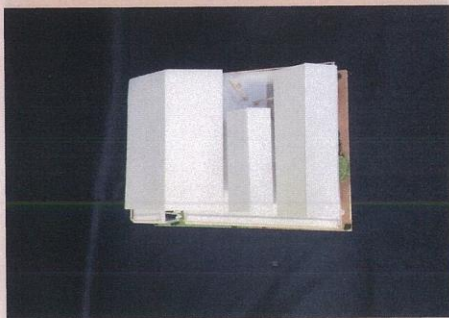
模型写真



イメージ図



イメージ図



森下くんの提案

- ✓ 緑、海、風、空 . . .
- ✓ 公園と一体的に住むシェアハウス（住人が緑を世話する）
- ✓ 立体的に配置されたオープンスペースでのイベント
- ✓ 地域のシンボルであり、皆が緩やかに集まれる場所



Sky Garden

やがて恵みをもたらす森へ。



敷地近くの寺



敷地の現在



敷地近くの学校



敷地近くのマンション



築港商店街

敷地について

大阪市港区は、大阪市の西部に位置し、今は多様な主体との協働による地域活動や築港・天保山エリアの魅力作りを進めている地域です。築港・天保山エリアは大阪市の魅力創造戦略の重要エリアの一つと位置付けられています。しかし、築港・天保山エリアの中でも電車を挟んで北側と南側とは全くといっていいほど環境が違おうと実際に行ってみて感じました。北側には、海遊館やショッピングモールなどのレジャー施設が存在し、南側には、ほとんどがシャッターの閉まった商店街と赤レンガ倉庫があります。そして、今回の敷地は築港エリアの中でも南側に位置しています。

築港の現状と改善すべき問題

現状としては、高齢者が増えてきている影響もあって街はずごく静かで穏やかです。悪く言えば活気がなく面白くないように感じます。商店街も現状は、いくつものシャッターの閉まった店が存在している状況です。その理由としては私が思うに自分たちの街に可能性や希望を感じなくなったからだと思います。もしかしら今の様に静かで穏やかな方が良く、あえてシャッターを開けている人もいるかもしれないです。そして、改善すべき問題としては活気を取り戻すことと住民同士の繋がりがだと思えます。

この集合住宅が与える影響

公園と築港の自然環境を通して、今一度築港の素晴らしさを感じてもらい、さらに、公園で会話をしたり一緒に遊んだりすることで住民どうしの関係や繋がりを密接にし、豊かな自然環境に触れることで街の人々にゆとりとうるおいをもたらします。それに伴って今は閉まっているシャッターも開き、北側に流れている人の流れを南側にも流れてくるのではないかと、思います。今は、静かで活気のない商店街も人々の心が明るくなりひとの流れを少しでも南側にもってこることで、活気もおのずと戻っていくと考えます。



全部固めて考えてみる

もうちょっと上に高く
しようかな…



一番上にパブリックスペース

かたまりを少しくずし
たいな…

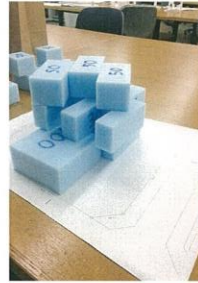


かたまりを広げる



住居部分を固めて前に
パブリックスペース

でこぼこした感じに
しようかな…



前後に突出させて立体的
にする

ちょっとイメージと違う
きがするなあ…

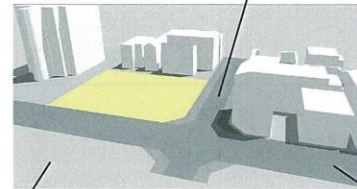


単身者用と家族用を
変えてみる



大きい建物があって
眺めが悪い

車の通りは少なく穏やか



通行人も少ない

隣は3階建ての住居
プライバシーの確保も課題



敷地は角地。
道路は2本ともフラット



リビングダイニングを見る

建築概要

- 所在地 大阪市港区築港
- 主要用途 集合住宅
- 設計 森下真樹
- 用途地域 近隣商業地域
- 敷地面積 594.71 m²
- 建築面積 369.5 m²
- 建ぺい率 63%
- 延床面積 504 m²
- 容積率 84%
- 階数 地上3階
- 構造 RC造(壁式工法)

おもな外部仕上げ

- 屋上 モルタル仕上げ
- 外壁 サイディング仕上げ
- 開口部 アルミサッシ
- 玄関戸 エルムーブ(LIXIL)
- 外構床 デザインクリート

おもな内部仕上げ

- 床 セラミックタイル(グレー)
- 壁 漆喰(ホホワイト)
- 天井 ポリエステル樹脂(ホホワイト)



常緑ヤマボウシ

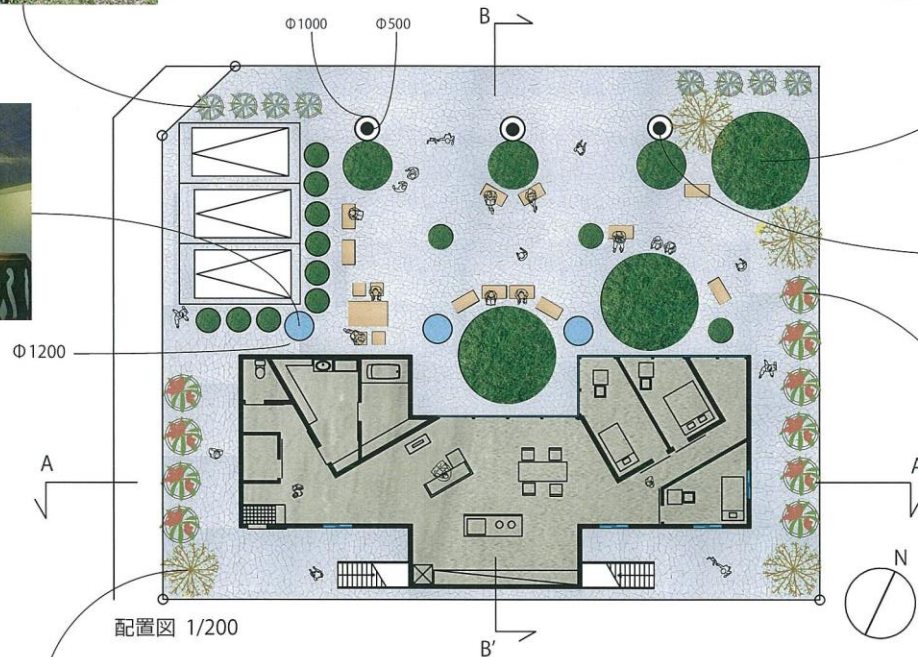
花が大きく数も多く咲き、実も大きいです。生長が遅く、あまり大きくなりにくい品種です。葉は細長く、ヤマボウシとはかなり違いますが、花はヤマボウシです。幅が広く、深い緑で厚みがあります。常緑樹で、6月頃白い花を咲かせます。木を覆うように花が咲きます

西洋芝

西洋芝は、寒さに強く、冬でも青い芝生で、ペントグラス類、ブルーグラス類、フェスク類、ライグラス類があります。比較的低い気温の下でよく生育し、夏の暑い時期には弱い性質です。



ガラス円柱イメージ



配置図 1/200



円柱イメージ



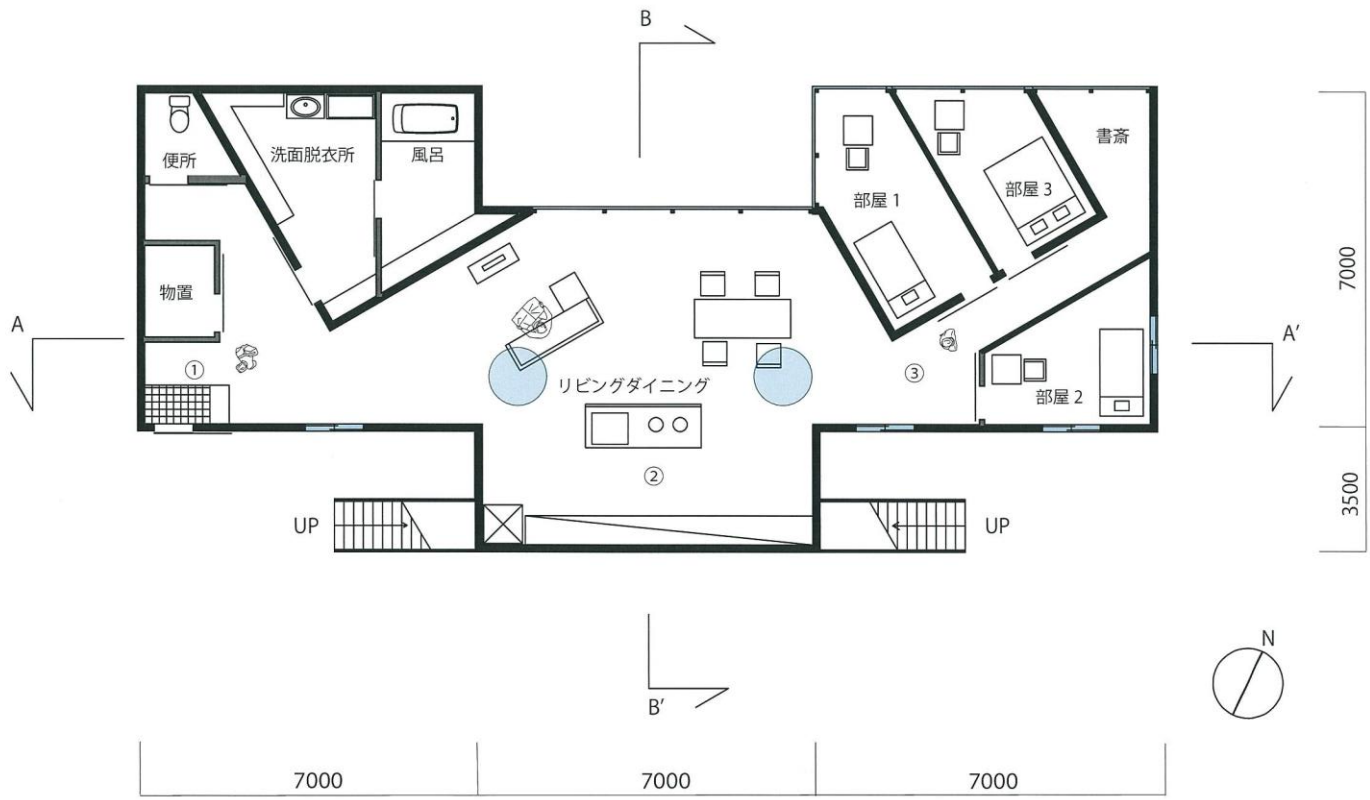
キンモクセイ

残暑が和らぐ中、香りで秋を知らせます。普段は特に特徴のない常緑樹ですが、開花期はオレンジの小花を枝いっぱいにつけ、その強い香りとともに遠くからでもよく目立ちます。

オリーブ

オリーブは銀葉が美しく、芝生の広い、洋風の庭に合います。果実は苦くて生食はできませんが、塩漬けやいわゆるバージンオイルを楽しむことができます。木は乾燥に強く、また樹勢が強く大木になります。

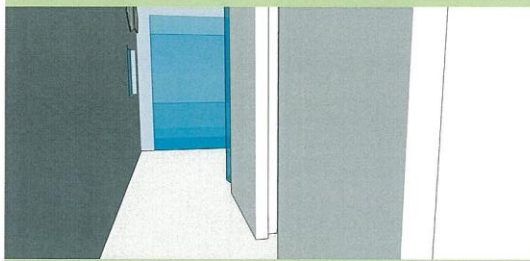




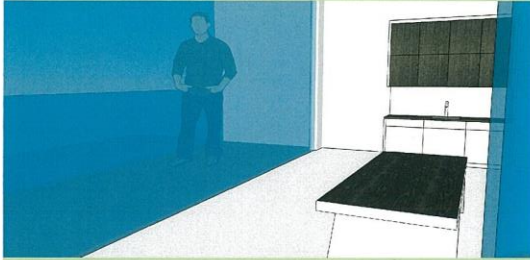
1階部分は大家さん住居になっており、内装は斜めの壁が2階の壁をそのまま下に降ろすことで空間の意匠性を高め、構造物自体の耐力も向上させています。

リビングダイニングには、トップライトを設けることで足りない分の採光を補っている。

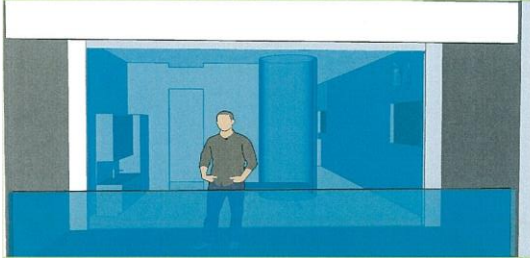
リビングダイニングと部屋1、部屋3、フリースペースは開口部をガラス張りにすることで公共空間である公園と内部空間の繋がりを密接にしている。そうやって外部と内部の繋がりを持たせることで築港やその周辺の環境には今までなかった自然や緑といった、この建築物が周辺の環境に与えたい物をより明確に発信することができる。



①から正面を見る

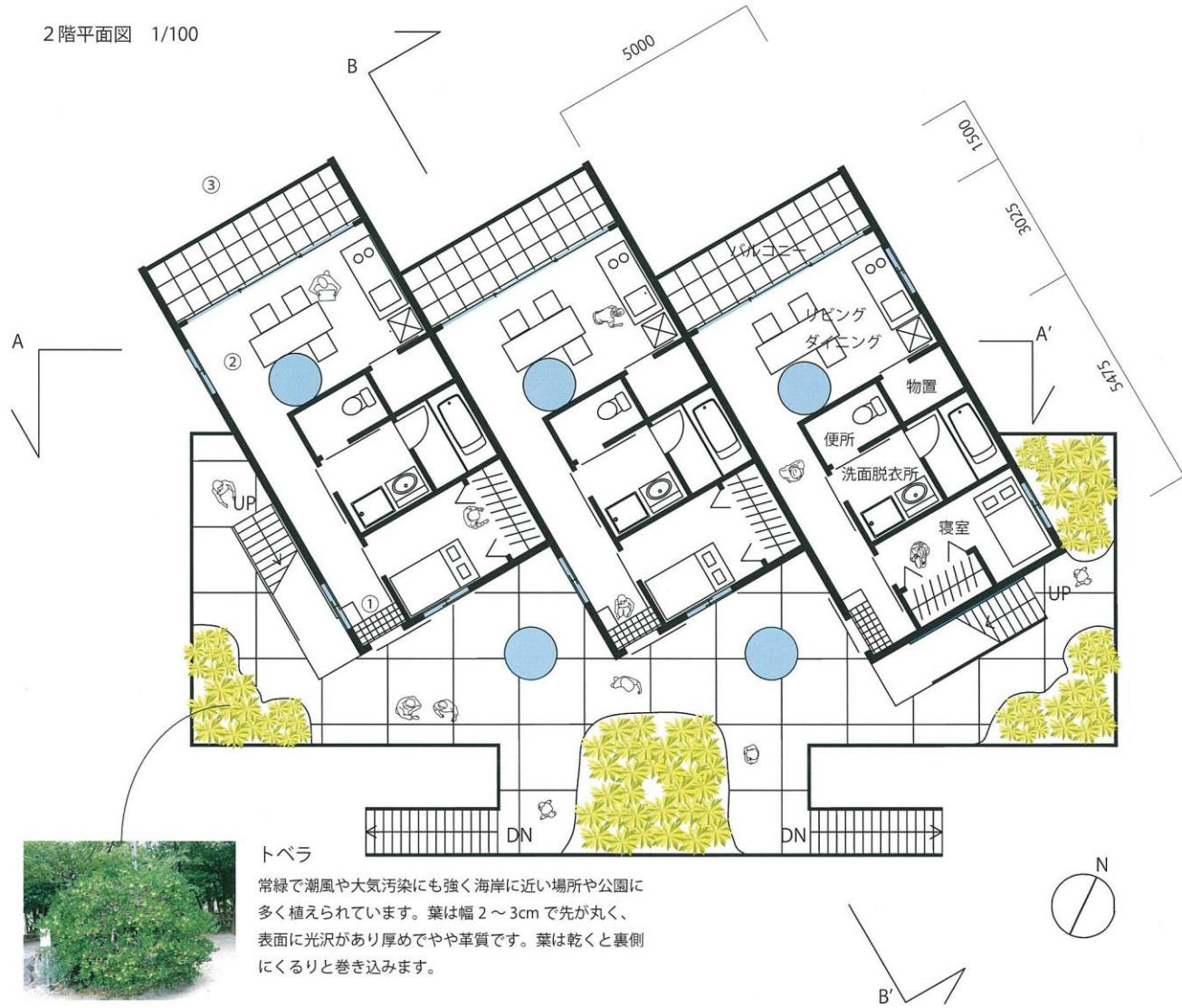


②からキッチンを見る



③からバルコニーを見る

2階平面図 1/100



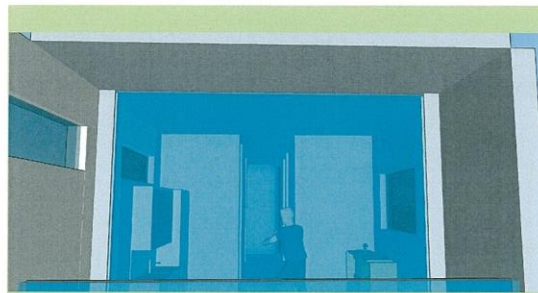
トベラ

常緑で潮風や大気汚染にも強く海岸に近い場所や公園に多く植えられています。葉は幅2~3cmで先が丸く、表面に光沢があり厚めでやや革質です。葉は乾くと裏側にくるりと巻き込みます。

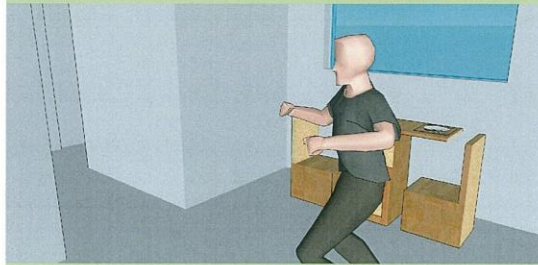
2階部分は家族用住居となっており、共用廊下は1階の躯体を利用することでパブリックスペースである公園の面積を広くしています。

バルコニーも上階にある庭と考え、気楽に戸外の風を楽しめる場に。食事をしたり、語り合ったり。気持ちもつなぐ空間を演出します。

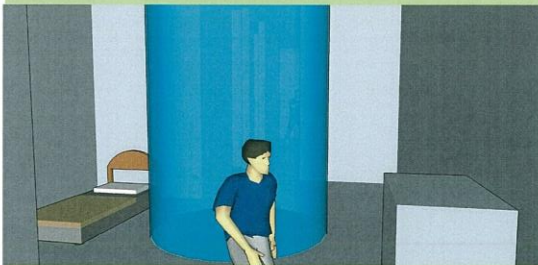
住居部分は、リビングダイニングにガラスの円柱を取り入れることで採光を取っています。そして、バルコニーへと繋がる開口部をフルオープンにすることで外部空間と内部空間の繋がりを密接にしています。



①からバルコニーを見る



②から南を見る



③から正面を見る

3階平面図 1/100



3階部分は、単身者用住居となっており、2階同様に共用廊下は2階の躯体を利用しています。植栽はすべて常緑で潮風に強いトベラを配置しています。内装は、洗面所から風呂へ行くまでの動線を風呂と洗面所の扉でかくせるようにくふうしています。そして、バルコニーとリビングダイニングを繋ぐ開口部はフルオープンにすることで外部空間と内部空間の繋がりを密接にしています。



①から中央を見る

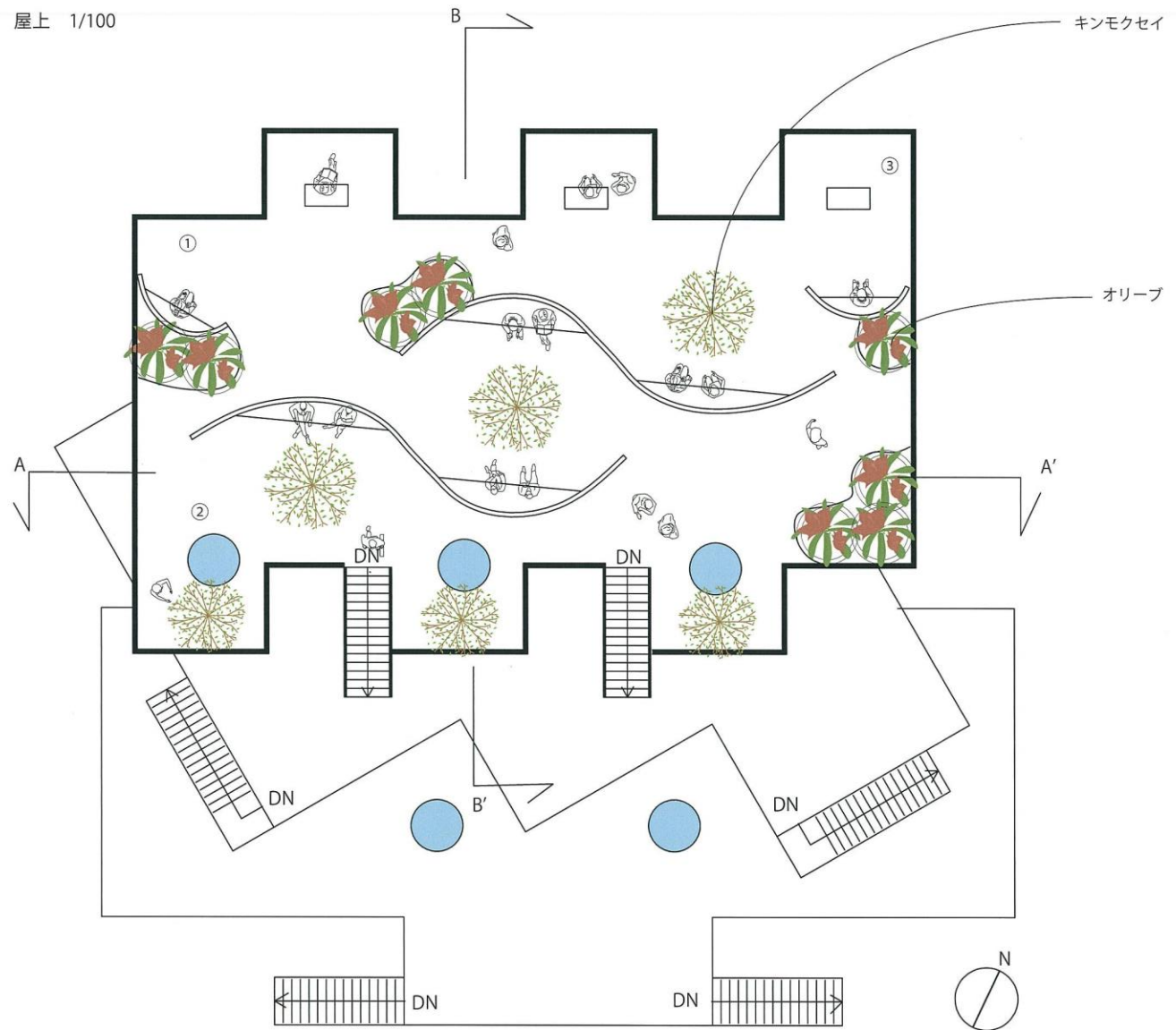


②から正面を見る



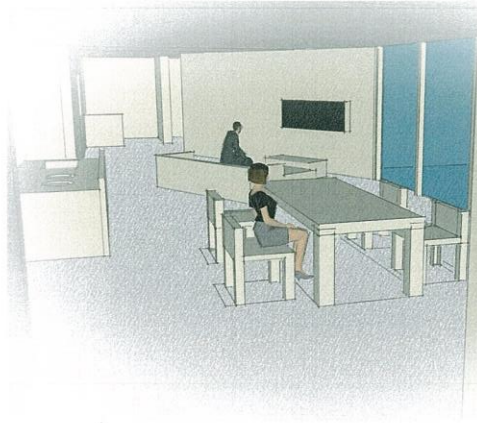
③から中央を見る

屋上 1/100



屋上階は屋上庭園になっており。用途としては集合住宅に住んでいる人々のコミュニケーション空間や散歩する空間、景色を楽しんでリラックスするような空間としている。

デザインは、波のような曲線状の壁をたちあげ周りにキンモクセイとオリーブを配置することで築港のシンボルの1つでもある海と自然の融合を表現しました。

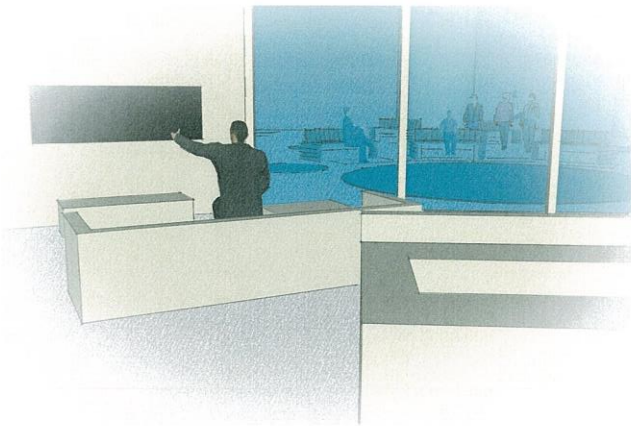


景色との一体感を演出する。

北側に大きな開口部を設けたリビングダイニング。バルコニーの手すりはガラス製とすることで雄大な眺望と一体感あふれる空間を作りました。

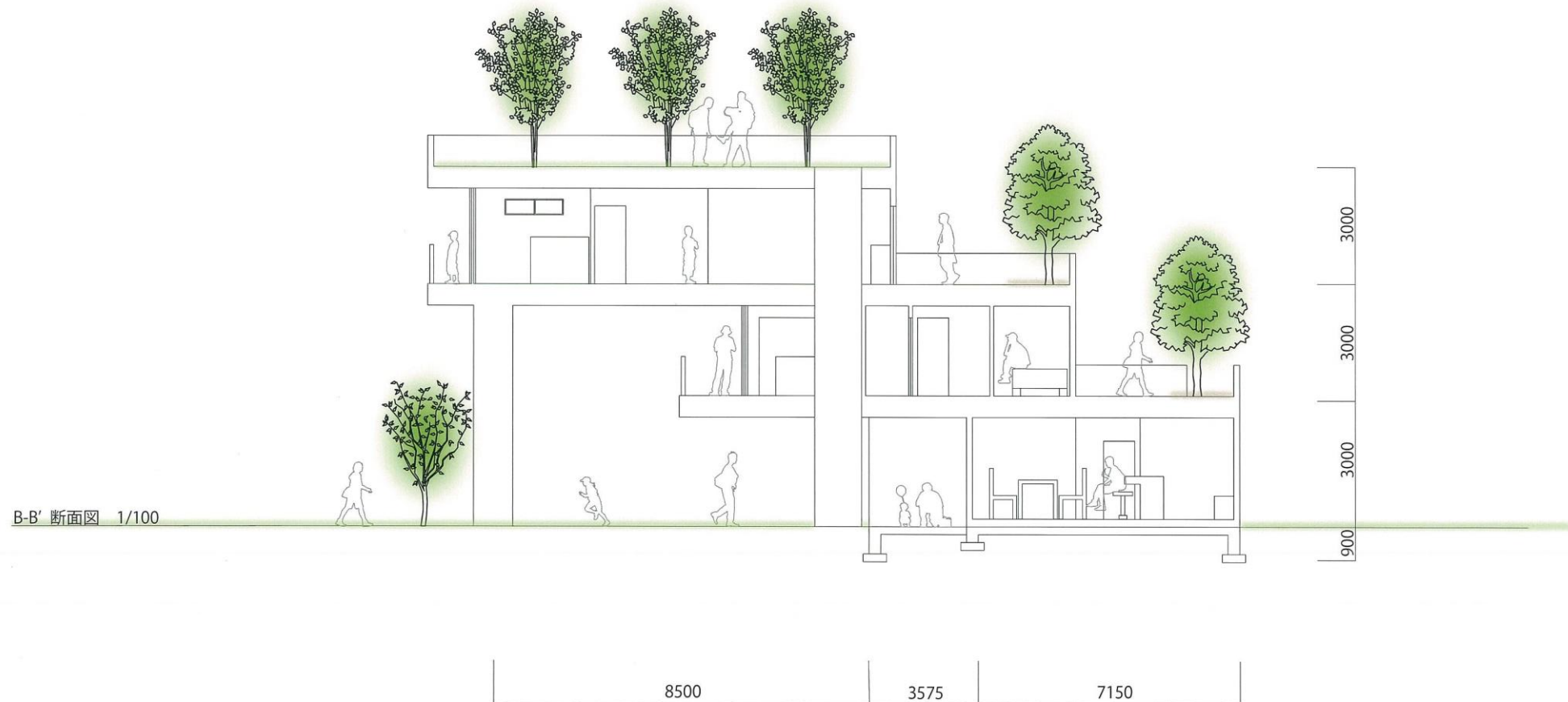


A-A' 断面図 1/100



大開口で楽しむ公園の緑

1階の大家さんの住居からは、敷地の最大の魅力である公園に向かって大きな開口部を設け、緑の眺めを取り込んでいます。





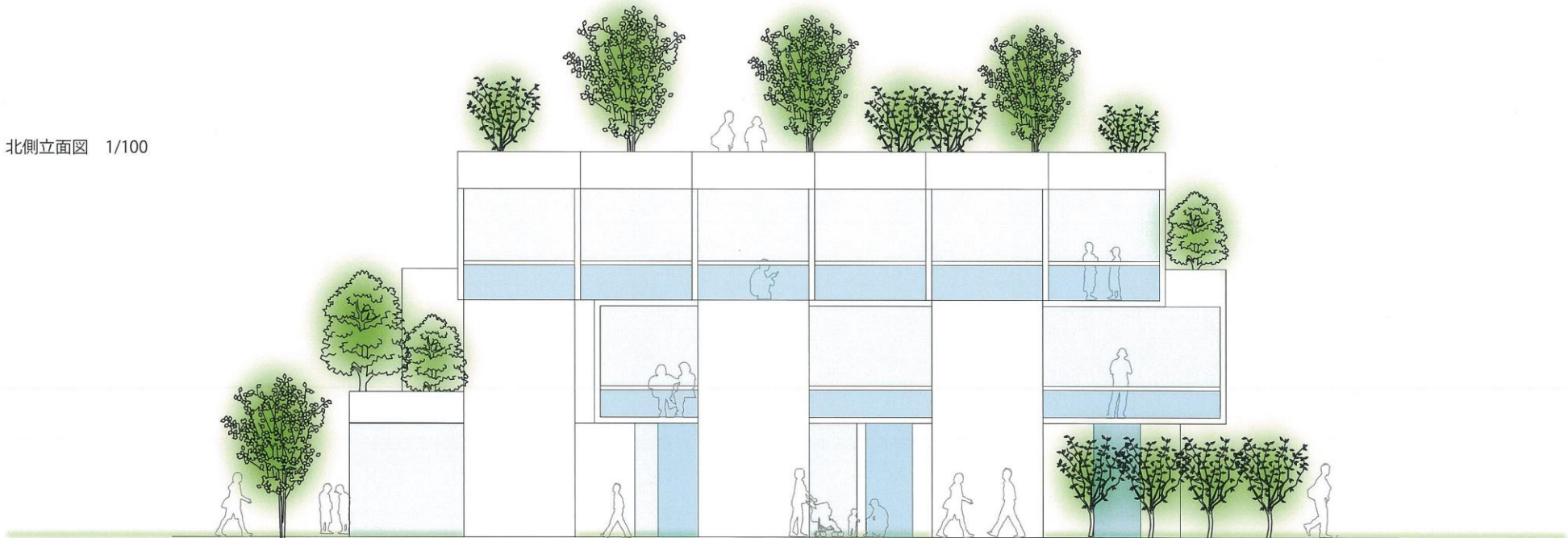
自然の可能性

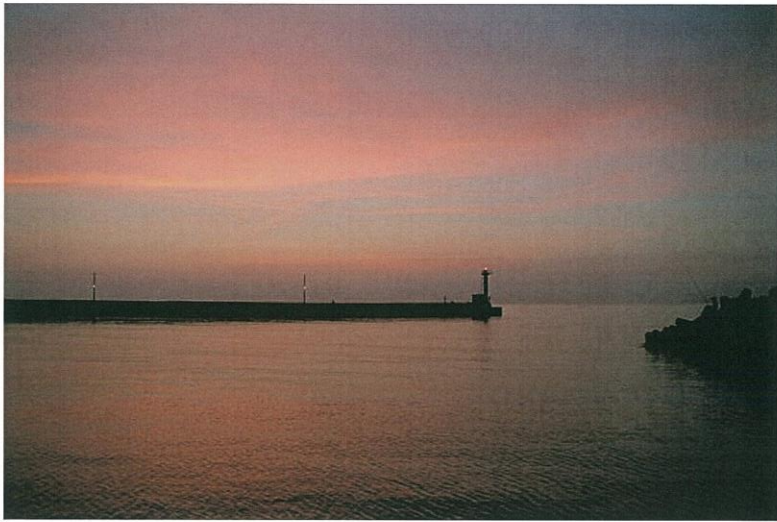
大きな木を背景にカフェをしたり
集合住宅の居住者でフリーマーケ
ットを開いたり。自然はいろんな
可能性を与えてくれます。



西側からの写真

北側立面図 1/100





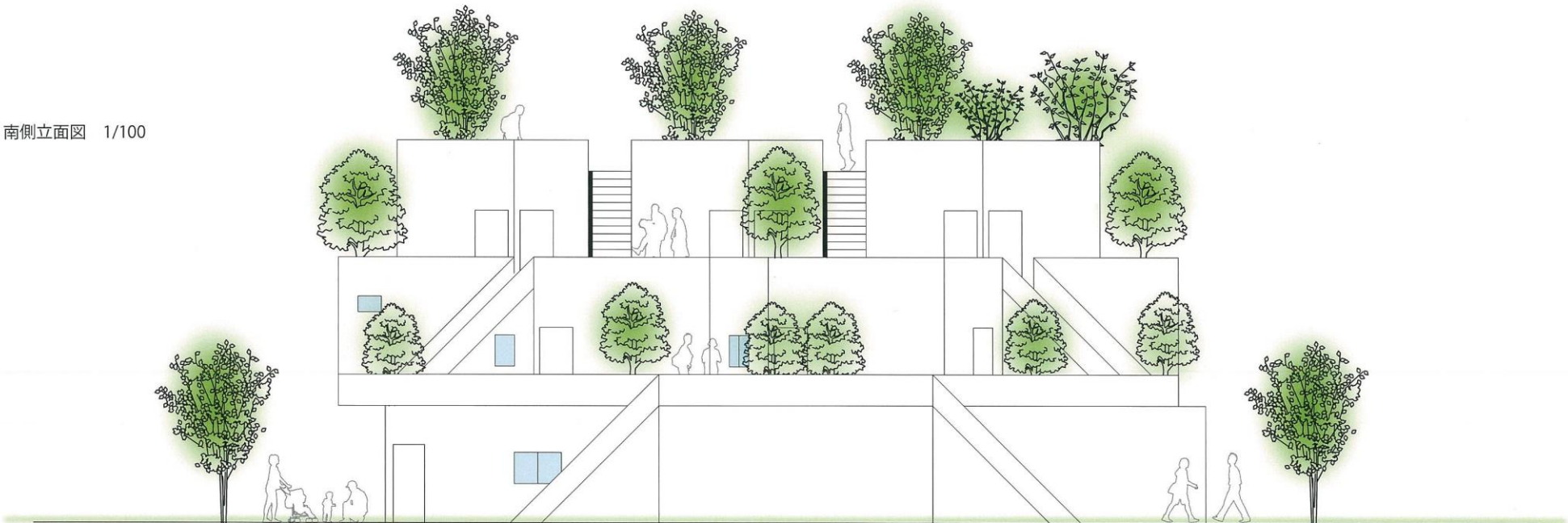
海を意識したデザイン

パブリックスペースの公園と屋上庭園のデザインは、両方とも海をイメージしてデザインしています。公園は泡をイメージした芝生、屋上庭園は波をイメージした壁を立ち上げています。



東側からの写真

南側立面図 1/100

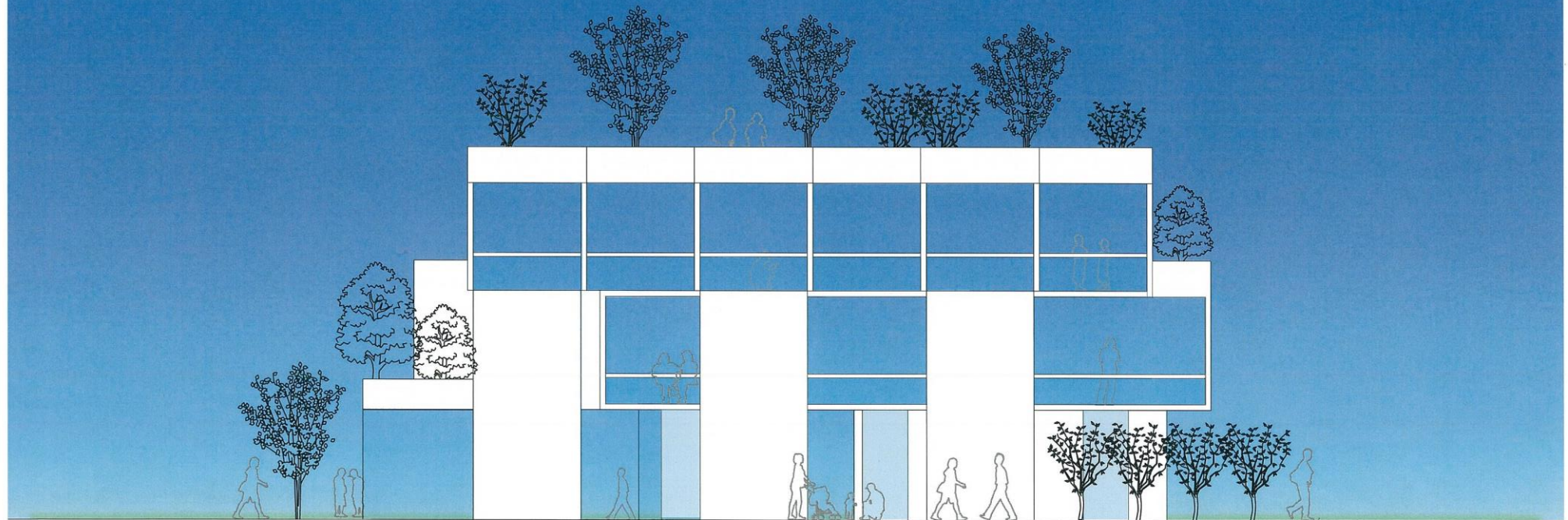


海があり、風がある。

Sea and breeze, it's my precious space

窓の外に広がる緑豊かな眺めや大きな空に心を遊ばせたり、鳥のさえずりや海から聞こえる波の音、潮風に気持ちを和ませたり、あるいは、美しく整えられ、時を重ねて味わいを増していく空間から深い安らぎを得たり……

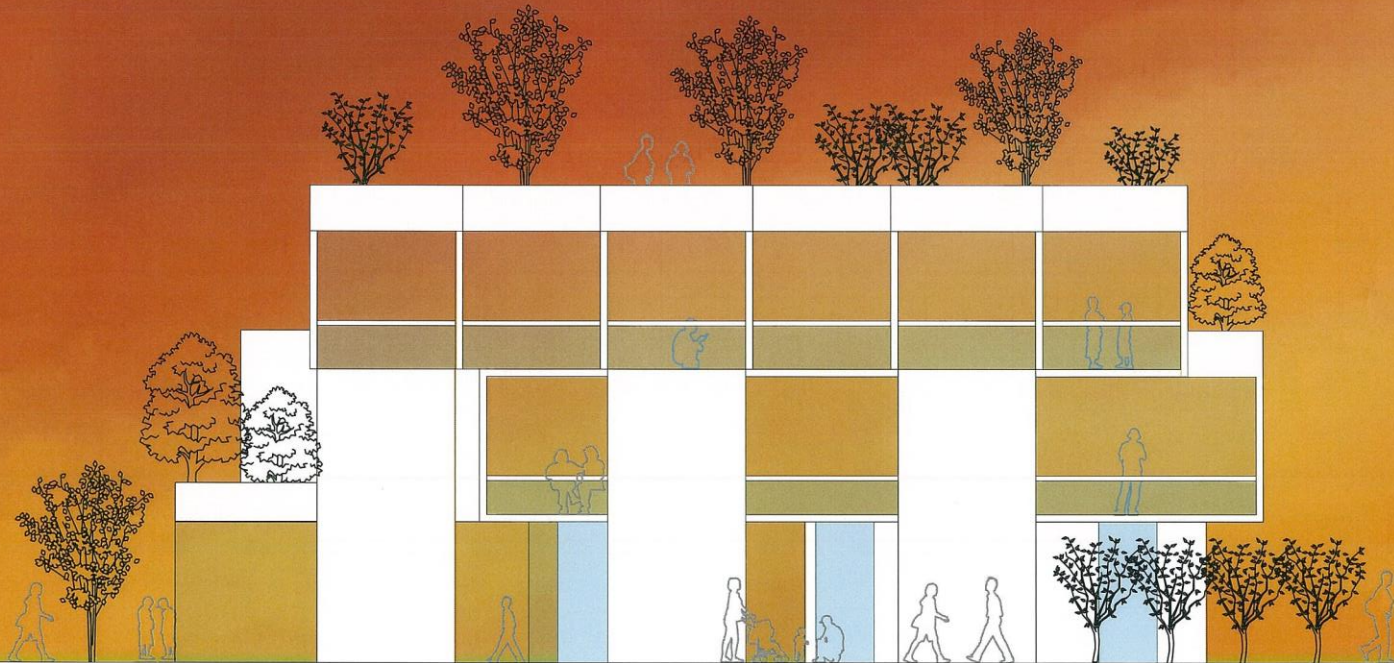
こうした時間が、暮らしをさらに豊かにすることでしょう。内装と外装は、庭や公園の緑を強調するため、白を基調とすることで緑が際立つ清潔感あふれる空間になっている。



木があり、庭がある。

Green and serene, it's my precious space

緑の葉が揺れる木陰のきもちよさは、単なる日陰とは違う。
人は、自然から有形無形の心地よさを受け取っています。
木を活かした住まいと、緑豊かな庭を一緒に設計していく
ことで、自然や四季を感じられるのはもちろん、住まい方を
広げ、暮らしを豊かにする空間を生み出します。そして、
庭では植物たちが成長し続けながら、住む人をうるおわせて
くれることでしょう。
毎日を楽しく、心地よくし、外観も室内空間もより美しく。
それは、木、住まい、庭、築港とその周辺環境が融合して
生まれる、この建築物の特徴である。



最後に

福田さんは仰います「まちには新しいシステム（仕組み）が必要だ」と。

今ある地域資源がそれぞれに頑張るだけではなく、それらが繋がり、一緒に頑張ることができる楽しい物語のような仕組みを創出する必要があるということです。

「まちづくり」は行政だけが行うことでもなく、何か特別に大きなことをしなければならないということでもありません。

小さく些細なことでも、確実に何かが変わり、連鎖反応をし始める「きっかけ」を与えることが大切だと、今回の連携課題を通じて学ぶこともできました。

さらに、OCTインテリアデザイン学科の学生が築港界隈に関わらせていただいたことも、まちが変わる「きっかけ」の一つになればと思います。

本日はこのような機会を設けて頂き、ありがとうございました。



OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

O

C

T